

平成26年度 全国学力・学習状況調査

宮城県の調査結果報告

目 次

I	全国学力・学習状況調査の概要	P1
1	調査の目的	
2	調査実施日	
3	調査対象	
4	調査事項及び内容	
5	参加状況	
6	調査結果の概況	
7	今後の対応	
II	各教科の調査の結果	P5
1	小学校（国語） 主として「知識」に関するA問題	
2	小学校（国語） 主として「活用」に関するB問題	
3	小学校（算数） 主として「知識」に関するA問題	
4	小学校（算数） 主として「活用」に関するB問題	
5	中学校（国語） 主として「知識」に関するA問題	
6	中学校（国語） 主として「活用」に関するB問題	
7	中学校（数学） 主として「知識」に関するA問題	
8	中学校（数学） 主として「活用」に関するB問題	
III	類似問題の経年比較	P21
IV	児童生徒質問紙調査結果	P34
V	学校質問紙調査結果	P36
VI	平均正答率の高い県との比較	P38

Ⅰ 全国学力・学習状況調査の概要

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年の全児童
- ・中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全生徒

4 調査事項及び内容

(1) 教科に関する調査

- ・小学校6年生：国語，算数
- ・中学校3年生：国語，数学

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

5 参加状況（仙台市を含む）

【小学校調査】 公立学校395校 参加児童数19,961名

【中学校調査】 公立学校202校 参加生徒数18,835名

6 調査結果の概況

(1) 平成19年度から平成26年度までの教科に関する調査結果一覧

		「知識」に関するA問題				「活用」に関するB問題				
		問題数	全国 平均正答率	宮城県 平均正答率	全国平均 との比較	問題数	全国 平均正答率	宮城県 平均正答率	全国平均 との比較	
小学 校	国 語	H26	15	72.9	74.2	+1.3	10	55.5	54.3	-1.2
		H25	18	62.7	60.8	-1.9	10	49.4	47.6	-1.8
		H24	17	81.6 81.4-81.7	81.7 81.2-82.3	+0.1	11	55.6 55.4-55.8	55.9 55.1-56.8	+0.3
		H22	15	83.3 83.2-83.5	83.4 82.7-84.0	+0.1	10	77.8 77.7-78.0	77.7 76.9-78.5	-0.1
		H21	18	69.9	67.4	-2.5	10	50.5	49.8	-0.7
		H20	18	65.4	64.2	-1.2	12	50.5	49.2	-1.3
		H19	18	81.7	80.6	-1.1	10	62.0	61.0	-1.0
	算 数	H26	17	78.1	77.3	-0.8	13	58.2	56.8	-1.4
		H25	19	77.2	76.3	-0.9	13	58.4	56.5	-1.9
		H24	19	73.3 73.1-73.5	72.7 71.9-73.5	-0.6	13	58.9 58.7-59.1	58.1 57.2-59.1	-0.8
		H22	19	74.2 74.0-74.4	73.8 72.9-74.7	-0.4	12	49.3 49.1-49.5	47.8 46.8-48.7	-1.5
		H21	18	78.7	77.5	-1.2	14	54.8	54.0	-0.8
		H20	19	72.2	71.3	-0.9	13	51.6	50.4	-1.2
		H19	19	82.1	81.1	-1.0	14	63.6	61.4	-2.2
中学 校	国 語	H26	32	79.4	80.3	+0.9	9	51.0	52.0	+1.0
		H25	32	76.4	77.6	+1.2	9	67.4	68.6	+1.2
		H24	32	75.1 75.0-75.2	76.2 75.6-76.7	+1.1	9	63.3 63.2-63.4	65.5 64.9-66.2	+2.2
		H22	35	75.1 75.0-75.2	76.2 75.6-76.7	+1.1	10	65.3 65.1-65.5	66.7 66.0-67.4	+1.4
		H21	33	77.0	78.1	+1.1	11	74.5	76.4	+1.9
		H20	34	73.6	73.8	+0.2	10	60.8	61.8	+1.0
		H19	37	81.6	80.8	-0.8	10	72.0	71.0	-1.0
	算 数	H26	36	67.4	65.6	-1.8	15	59.8	59.4	-0.4
		H25	36	63.7	62.2	-1.5	16	41.5	39.7	-1.8
		H24	36	62.1 62.0-62.3	60.8 59.9-61.8	-1.3	15	49.3 49.2-49.5	50.5 49.4-51.6	+1.2
		H22	36	64.6 64.4-64.8	64.4 63.4-65.4	-0.2	14	43.3 43.1-43.5	44.0 42.9-45.1	+0.7
		H21	33	62.7	62.1	-0.6	15	56.9	57.7	+0.8
		H20	36	63.1	61.4	-1.7	15	49.2	49.1	-0.1
		H19	36	71.9	70.3	-1.6	17	60.6	59.4	-1.2

※平成22年度、24年度の値は、抽出校の平均正答率、下段は抽出校の平均正答率をもとに、悉皆調査を実施した場合の県の平均正答率を想定した値の範囲（95%信頼区間 文部科学省の説明による）。平成23年度は、東日本大震災により中止。

(2) 教科に関する調査の結果

- 国語については改善傾向が見られ、小学校、中学校の「知識」に関するA問題、中学校の「活用」に関するB問題が全国平均を上回った。小学校のB問題については、昨年度と比較して全国平均との差が小さくなっている。
- 算数、数学については、数学のA問題以外は昨年度と比較して全国平均との差が小さくなっているものの、A問題、B問題とも全国平均を下回っており課題が見られる。
- 昨年度との比較で、全国平均を上回る教科が増え、下回っている教科でも全国平均との差が小さくなっている教科も多いことから、震災による厳しい学習環境の中、各校で児童生徒と教師が努力を重ねてきた結果が徐々に成果となって表れてきたものと考えられる。

(3) 児童生徒質問紙調査の結果

- 小・中学生ともに、朝食を毎日食することなど、基本的な生活習慣に関する質問に対しては、昨年度に引き続き全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多い。学力向上を支える基盤となる基本的な生活習慣が児童生徒に身に付いてきていると考えられる。
- 家庭で授業の予習、復習をしている割合は、小・中学生ともに全国値を大きく上回っている。
- 長時間（3時間以上）テレビやビデオ・DVDを見る割合は、小学生は全国値よりは高いものの昨年度より減少し、中学生においては全国値よりも低い。
- 長時間（3時間以上）携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。
- 国語の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小・中学生ともに昨年度よりも増加し、中学生においては全国値よりも高い。
- 算数・数学の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小学生で昨年度よりも減少しており、小・中学生ともに全国値よりも低い。
- 平日に2時間以上勉強している中学生の割合は、昨年度より減少し、全国値を下回っている。
- 授業のはじめに目標を示されたり、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行ったりしていると思っている割合は、小学生で昨年度より減少し、小・中学生ともに全国値を下回っている。

(4) 学校質問紙調査の結果

- 「全国学力・学習状況調査の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。
- 国語の指導において、書く習慣を付ける指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高く、特に小学校では大きく上回っている。
- 算数・数学の指導において、補充的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校で昨年度より増加しており、小・中学校ともに全国値よりも高い。
- 算数・数学の指導において、発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校で昨年度より減少しており、小・中学校ともに全国値よりも低い。

7 今後の対応

- 昨年度示した学力向上に向けての基本となる「5つの提言」(※P42<参照>「5つの提言」)を全ての学校でさらに推進していくよう働き掛ける。中でも「5つの提言」の3つ目にある「ねらいを明確にし、終末にしっかり振り返る」ことの徹底を促し、授業改善につなげていく。
- 言葉の意味や漢字の書き取り、計算など基礎・基本の定着に課題が見られたことから、単元問題ライブラリーや学力テストの過去問等を活用し、授業や放課後学習、家庭学習等での繰り返しを徹底させることによって基礎学力の定着を図っていく。
- 特に、未だ全国平均には達していない算数については、ひいては中学校の数学への影響も懸念されることから、緊急的に「算数科研修会」を10月に実施するとともに、算数科指導力向上のための研修を継続していくほか、学力向上に向けて効果的な実践をしている小・中学校の取組事例をまとめたリーフレットを全校に配布し、教師の指導力の更なる向上を図っていく。
- 今回の調査結果の詳細分析と10月に実施する宮城県学力・学習状況調査の分析を連動させながら、各学校の検証改善サイクルを確立していく。その際、各学校での調査結果の効果的な活用を推進するため、「学力・学習状況調査活用研修会」を開催する。
- 今後とも、市町村教育委員会と連携して、学力向上に向けたこれらの取組を着実に進めていく。

児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査結果のポイント

〈児童生徒質問紙調査の結果〉

1 基本的な生活習慣について

(1) 基本的な生活習慣関連の質問10項目について

質問事項	小学校	中学校
肯定的な回答が全国値を上回る項目数(割合)	5項目(50%)	8項目(80%)
肯定的な回答が全国値と等しい項目数(割合)	2項目(20%)	0項目(0%)
肯定的な回答が全国値を下回る項目数(割合)	3項目(30%)	2項目(20%)

(2) 基本的な生活習慣の具体的な例(はやね、はやおき、あさごはん等、生活に関する項目)

※下段は全国との比較

質問事項	小学校(%)							中学校(%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	81.7	80.6	79.0	77.4	75.4	73.2	73.5	77.5	78.0	76.2	74.8	72.5	71.5	70.1
	+2.5	+1.7	+1.6	+1.9	+0.3	+0.5	+1.6	+3.4	+3.7	+2.2	+3.8	+3.1	+3.3	+3.2
2 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	90.9	90.4	90.0	90.1	89.3	88.2	88.7	92.9	92.6	92.4	92.5	91.8	91.3	89.9
	0.0	-0.5	-0.6	-0.2	-0.9	-0.8	+0.2	+0.8	+0.3	+0.5	+1.3	+0.9	+0.9	+1.0
3 朝食を毎日食べていますか	96.8	96.7	96.6	97.4	96.6	96.3	96.2	94.6	94.7	94.4	94.5	94.0	93.6	93.3
	+0.8	+0.4	+0.5	+1.0	+0.6	+0.9	+1.0	+1.1	+0.9	+0.8	+1.2	+1.6	+1.7	+1.7
4 普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見ますか(3時間以上)	39.6	41.9	47.8	47.2	51.1	51.7	38.0	30.3	29.7	33.3	38.1	40.4	43.0	35.9
	+1.6	+3.3	+5.1	+3.9	+5.4	+5.6	+3.7	-1.2	0.0	+0.8	+1.6	+2.4	+3.4	+2.8
5 普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか(3時間以上)	17.4	16.1	13.7	12.6	13.0	14.0	9.8	19.8	14.3	10.5	10.2	10.5	10.4	10.5
	+0.4	+1.2	+1.1	+1.3	+1.4	+2.1	+0.9	-0.5	0.0	-0.9	-0.6	+0.1	-0.1	-0.2
6 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(3時間以上)	4.8							13.8						
	-0.2							-1.0						

※4と5については、数値が高いほど、また、全国との比較の値が大きいほど改善の必要性が高い。

2 家庭での学習習慣

※下段は全国との比較

質問事項	小学校(%)							中学校(%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
7 家で学校の授業の予習をしていますか	50.2	47.6	45.6	48.6	42.6	39.1	36.6	46.7	48.3	39.3	43.9	42.1	41.0	39.3
	+7.0	+6.3	+5.1	+8.2	+5.1	+3.7	+3.7	+12.5	+14.8	+10.0	+13.0	+12.6	+12.6	+9.8
8 家で学校の授業の復習をしていますか	66.1	61.9	59.9	61.2	54.9	50.8	35.8	63.0	60.8	56.8	54.4	49.7	48.4	45.8
	+12.1	+10.5	+9.7	+11.6	+8.9	+7.4	-4.3	+12.5	+12.2	+11.3	+10.9	+9.2	+8.8	+6.6
9 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾や家庭教師含む、小学校：1時間以上、中学校：2時間以上)	64.1	64.8	61.2	61.5	56.9	52.9	53.8	29.6	30.7	30.0	28.5	29.1	29.8	27.4
	+2.1	+1.6	+1.7	+3.3	-0.3	-3.2	-4.0	-5.5	-5.8	-5.3	-7.2	-6.6	-5.9	-8.0
10 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾や家庭教師含む、小学校：2時間以上、中学校：3時間以上)	22.0	20.9	19.5	20.5	17.9	16.3	15.4	15.6	15.5	15.0	12.9	13.5	13.6	11.8
	-2.0	-4.3	-4.3	-3.0	-4.9	-6.4	-7.6	-1.3	-1.7	-1.2	-2.9	-1.9	-1.5	-3.1

3 学習に関する関心・意欲・態度

※下段は全国との比較

質問事項	小学校(%)							中学校(%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
11 授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	77.5	78.1						67.7	65.0					
	-4.5	-4.4						-3.8	-3.1					
12 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	65.0	73.3						53.0	52.9					
	-3.9	-3.4						-0.3	+1.6					
13 国語の授業の内容はよく分かりますか	78.8	78.4	83.7	82.3	80.1	77.6	78.7	74.5	74.3	74.7	71.5	70.1	69.6	67.5
	-1.3	-1.5	+0.6	0.0	+0.1	-0.4	+0.7	+2.5	+2.4	+3.5	+1.6	+1.3	+2.8	+2.1
14 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	76.2	78.6	79.5	78.0	80.2	79.2	77.9	71.4	70.5	64.1	64.8	62.4	64.5	61.5
	-1.4	-1.6	+0.4	+0.8	+1.0	+0.8	+0.8	-0.1	0.0	-0.8	-0.9	-2.5	-1.0	-2.1

〈学校質問紙調査の結果〉

※下段は全国との比較

質問事項	小学校(%)							中学校(%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったか	97.3	96.1	87.2	100.0	93.0	89.0		97.1	92.4	76.6	94.2	93.2	94.1	
	+0.4	+4.0	+1.7	+0.1	+1.3	-5.8		+1.8	+3.7	-3.2	+1.3	+3.2	+8.1	
2 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行ったか	93.2	89.1	94.0	91.6	88.3	90.1	82.2	96.5	96.0	94.9	94.2	95.0	89.5	85.8
	+2.6	-0.8	+4.2	+2.2	-0.8	+2.7	-1.2	+2.9	+3.8	+3.3	+3.1	+4.1	-0.3	-1.9
3 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか	82.5	86.0	89.5	85.4	85.5	87.4	82.6	84.7	78.3	84.6	84.9	85.9	81.4	84.4
	-0.7	+2.3	+6.6	+2.4	+2.2	+4.5	+2.3	-1.4	-5.9	+0.7	+0.2	+3.2	-1.7	+2.3
4 算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行ったか	89.8	87.4	91.9	89.6	88.5	93.1	88.8	88.1	88.9	87.3	89.0	88.2	91.8	91.2
	+0.3	+0.1	+3.6	+1.8	+1.8	+3.1	+1.0	+0.5	+2.9	+0.3	+2.4	+2.1	+3.0	+4.5
5 算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行ったか	54.4	54.7	55.0	58.4	55.4	59.2	56.4	59.4	52.5	53.9	52.6	60.0	55.9	55.1
	-3.9	+0.3	+1.1	+4.5	+0.9	+1.4	-1.9	-1.9	-5.8	-4.6	-4.1	+4.5	-3.2	-4.6
6 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行ったか	86.6	78.6	77.6	72.3	68.1	62.1		96.0	99.0	97.3	94.1	96.8	95.9	
	+14.6	+7.1	+6.3	+1.7	-1.4	-4.1		+1.8	+4.5	+2.0	-2.1	+0.9	0.0	

※示している数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計した割合

II 各教科の調査の結果

1 小学校国語A問題

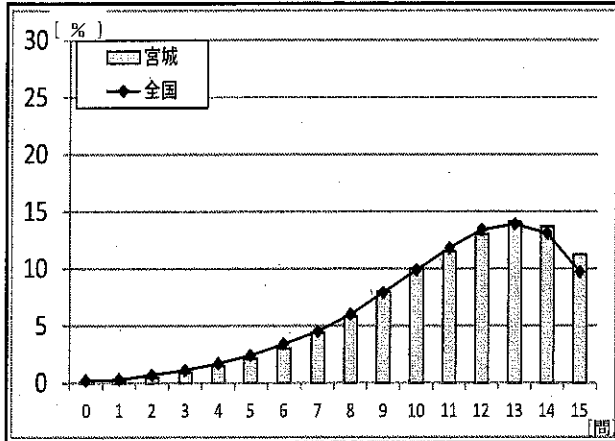
(1) 結果の概要

- 平均正答率は74.2%であり、全国平均を1.3ポイント上回る結果となっている。
- 「伝統的な言語文化と国語科の特質に関する事項」において全国平均を上回り、基礎的・基本的な内容に関する知識・技能について、改善が図られている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において全国平均を下回り、課題が見られる。

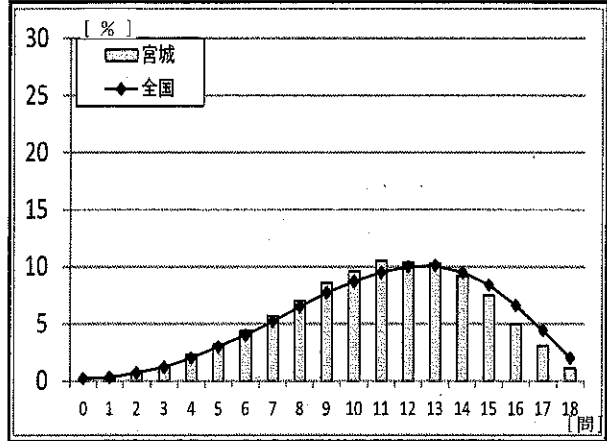
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、14問（90%程度）以上正答している児童の割合が全国と比べて高く、正答数が6問（40%程度）以下の児童の割合が全国より低くなっており、全体的に底上げが図られている。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「伝統的な言語文化と国語科の特質に関する事項」において全国平均を1.8ポイント上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において全国平均を下回っている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H26	69.5	72.4	-2.9	70.2	72.2	-2.0	68.5	68.5	0.0	75.5	73.7	1.8	74.2	72.9	1.3
H25	45.4	43.3	2.2	50.1	53.0	-2.9	60.7	60.1	0.6	60.8	62.6	-1.8	60.8	62.7	-1.9
H24	79.8	79.4	0.4	55.0	57.5	-2.5	82.5	82.1	0.4	86.8	86.3	0.5	81.7	81.6	0.1
H22	82.7	83.2	-0.5	66.0	67.7	-1.7	73.6	74.1	-0.5	86.0	86.8	0.2	83.4	83.3	0.1
H21	65.2	68.0	-2.8	84.9	85.4	-0.5	67.2	68.7	-1.5	60.9	64.2	-3.3	67.4	69.9	-2.5
H20	76.4	76.1	0.3	50.7	53.3	-2.6	44.1	44.5	-0.4	64.0	65.2	-1.2	64.2	65.4	-1.2
H19	54.5	56.6	-2.1	83.3	85.3	-2.0	67.0	67.3	-0.3	86.0	86.8	-0.8	80.6	81.7	-1.1

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【話すこと・聞くこと】

◆ 話合いの記録の仕方として適切なものを選択する問題の正答率は69.5%であり、全国平均を2.9ポイント下回っている。[7]

【書くこと】

◆ 情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する問題の正答率は54.7%であり、全国平均を4.0ポイント下回っている。[3]

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◇ 故事成語の使い方として適切なものを選択する問題の正答率は57.0%であり、全国平均を7.1ポイント上回っている。[2二]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正答率の かい離	無回答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化と 国語の特質 に関する事項	選択式	短答式	記述式	正答率 (%)	無回答率 (%)	正答率 (%)	無回答率 (%)		
1- (1)	漢字を読む (道路の標識を見る)				5-6 (1)ウ (ア)		○		92.1	1.6	91.7	1.7	0.4	-0.1
1- (2)	漢字を読む (街灯がつく)				5-6 (1)ウ (ア)		○		92.6	1.4	87.0	2.5	5.6	-1.1
1- (3)	漢字を読む (塾いよく走り出す)				5-6 (1)ウ (ア)		○		77.8	1.2	74.4	1.5	3.4	-0.3
1二 (1)	漢字を書く (料理をのせたさらを運ぶ)				5-6 (1)ウ (ア)		○		97.8	0.6	97.8	0.6	0.0	0.0
1二 (2)	漢字を書く (勝利をいわう)				5-6 (1)ウ (ア)		○		64.7	5.2	59.3	6.8	5.4	-1.6
1二 (3)	漢字を書く (かぜをよばえる)				5-6 (1)ウ (ア)		○		80.6	6.3	77.4	7.2	3.2	-0.9
2一	故事成語の使い方として適切なものを選択する (五十歩百歩)				3-4 (1)ア (イ)		○		60.2	0.3	55.8	0.3	4.4	0.0
2二	故事成語の使い方として適切なものを選択する (百聞は一見にしかず)				3-4 (1)ア (イ)		○		57.0	0.4	49.9	0.5	7.1	-0.1
3	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する		3-4 オ		5-6 (1)イ (ケ)		○		54.7	0.1	58.7	0.2	-4.0	-0.1
4	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なもの を選択する			5-6 ウ			○		73.2	0.2	71.7	0.3	1.5	-0.1
5	物語の一部に入る適切な人物の名前を書く			5-6 エ			○		63.9	0.5	65.3	0.5	-1.4	0.0
6一	「～たり、…たり」という表現に直して書く		5-6 オ		5-6 (1)イ (キ)		○		74.1	6.2	74.9	5.7	-0.8	0.5
6二	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する		5-6 オ		5-6 (1)イ (キ)		○		81.9	1.6	83.1	2.0	-1.2	-0.4
7	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	5-6 ア					○		69.5	1.4	72.4	2.1	-2.9	-0.7
8	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する (はかる)				3-4 (1)イ (カ)		○		72.6	1.8	74.3	2.7	-1.7	-0.9

2 小学校国語B問題

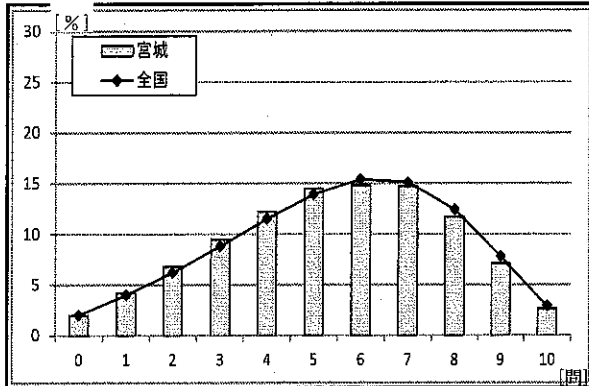
(1) 結果の概要

- 平均正答率は54.3%で、全国平均を1.2ポイント下回っているものの、全国平均とのかい離は平成25年度より0.6ポイント小さくなっている。
- 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けて書くことや、二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことなど、「書くこと」の領域に課題が見られる。

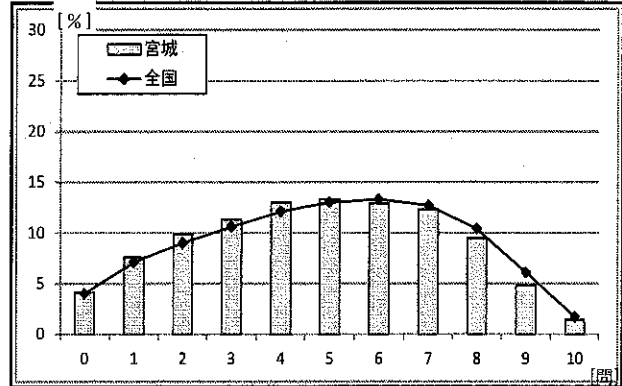
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、6問(60%)以上正答している児童の割合が低い状況が見られ、全体的な底上げが課題である。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 全ての領域の平均正答率が、全国平均を下回っている。
- 「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率の差は-0.3ポイントであり、全国平均とのかい離が平成25年度と比較して小さくなっている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H26	50.9	51.2	-0.3	32.5	34.4	-1.9	55.7	57.3	-1.6	68.6	69.8	-1.2	54.3	55.5	-1.2
H25	63.1	64.8	-1.7	41.7	43.8	-2.1	46.1	47.9	-1.8	63.7	63.8	-0.1	47.6	49.4	-1.8
H24	62.6	63.0	-0.4	47.0	46.8	0.2	5.6	55.7	-0.1	54.7	55.2	-0.5	55.9	55.6	0.3
H22	75.0	75.4	-0.4	92.2	91.6	0.6	73.1	73.4	-0.3	72.3	73.0	-0.7	77.7	77.8	-0.1
H21	61.1	61.3	-0.2	12.7	14.5	-1.8	55.6	56.5	-0.9	58.5	59.7	-1.2	49.8	50.5	-0.7
H20	72.7	73.0	-0.3	48.0	49.1	-1.1	46.6	48.3	-1.7				49.2	50.5	-1.3
H19	67.6	70.9	-3.3	60.5	61.7	-1.2	56.5	57.7	-1.2	79.4	77.0	2.4	61.0	62.0	-1.0

(4) 設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【話すこと・聞くこと】

- ◆ 司会④の発言の内容をまとめて書く問題の正答率は62.7%であり、全国平均を2.5ポイント下回っている。[1一]

【書くこと】

- ◆ 付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く問題の正答率は24.9%であり、全国平均を2.0ポイント下回っている。[2二]

【書くこと】【読むこと】

- ◆ 【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く問題の正答率は44.4%であり、全国平均を3.7ポイント下回っている。[3三]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県(公立)		全国(公立)		正答率の かい離	無回答率の かい離
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無回答率(%)	正答率(%)	無回答率(%)		
1一	司会④の発言の内容をまとめて書く	5-6 オ				○		62.7	8.8	65.2	7.9	-2.5	0.9	
1二	林さん⑤の質問の狙いとして適切なものを選択する	5-6 エ				○		61.6	2.9	60.2	3.5	1.4	-0.6	
1三	大野さん②の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	5-6 エ	5-6 ウ				○	28.3	5.1	28.3	5.0	0.0	0.1	
2一	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く			5-6 ウ		○		71.3	8.7	71.9	8.2	-0.6	0.5	
2二	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く		5-6 ウ	5-6 ウ			○	24.9	8.4	26.9	7.4	-2.0	1.0	
2三	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く			5-6 イ		○		64.7	4.2	66.0	4.3	-1.3	-0.1	
3一(1)	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する			5-6 エ	5-6 (1)イ (カ)	○		79.9	3.8	80.4	4.4	-0.5	-0.6	
3一(2)	【詩2】の表現の特徴として適切なものを選択する			5-6 エ	5-6 (1)イ (カ)	○		57.4	4.9	59.2	5.5	-1.8	-0.6	
3二	【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する			3-4 オ		○		47.6	18.4	48.5	19.8	-0.9	-1.4	
3三	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く		5-6 ウ	5-6 エ			○	44.4	26.7	48.1	26.0	-3.7	0.7	

児童質問紙

質問事項		宮城県	全国	かい離
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	74.2	76.1	-1.9
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった。	23.3	21.3	2.0
	3 書く問題を全く解答しなかった。	2.1	2.0	0.1
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)	1 時間が余った。	48.8	49.7	-0.9
	2 ちょうどよかった。	37.7	35.8	1.9
	3 やや足りなかった。	11.5	11.8	-0.3
	4 全く足りなかった。	1.9	2.3	-0.4
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)	1 時間が余った。	23.3	23.7	-0.4
	2 ちょうどよかった。	28.1	26.9	1.2
	3 やや足りなかった。	37.8	37.8	0.0
	4 全く足りなかった。	10.4	11.2	-0.8

3 小学校算数A問題

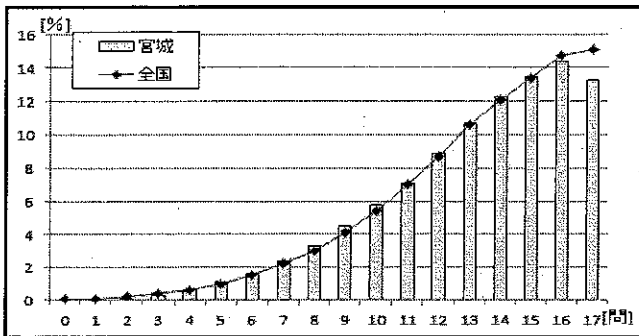
(1) 結果の概要

- 平均正答率は77.3%であり、全国平均とのかい離は平成25年度より0.1ポイント小さくなっているものの、全国平均を0.8ポイント下回っている。
- 平均正答率で全国平均を上回った問題は17問中5問であった。作図に用いられている図形の約束や性質を基に考える問題や二つの数量の関係を記号を用いて式に表す問題、円周の長さを求める問題で、全国平均を2.3ポイント以上下回る結果となっている。いずれも図形領域の問題である。

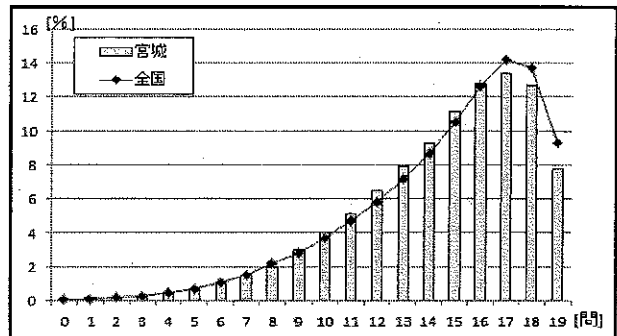
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、16～17問(90～100%)正答している児童の割合が低い。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 全ての領域で平均正答率が、全国平均を下回っているものの、「数と計算」「量と測定」の領域でのかい離は、0.1ポイントと小さくなっている。
- 「図形」「数量関係」の領域で、全国平均正答率とのかい離が平成25年度より大きくなり、課題が見られる。

年度	数と計算			量と測定			図形			数量関係			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H26	81.7	81.8	-0.1	74.7	74.8	-0.1	69.5	71.8	-2.3	79.6	81.3	-1.7	77.3	78.1	-0.8
H25	80.0	80.2	-0.2	66.7	68.3	-1.6	70.9	72.5	-1.6	82.7	83.4	-0.7	76.3	77.2	-0.9
H24	74.6	75.0	-0.4	71.0	71.7	-0.7	73.0	72.6	+0.4	71.9	74.4	-2.5	72.7	73.3	-0.6
H22	75.0	74.1	+0.9	72.0	74.1	-2.1	83.7	83.1	+0.6	63.4	65.7	-2.3	73.8	74.2	-0.4
H21	81.2	82.8	-1.6	77.4	78.5	-1.1	81.1	81.3	-0.2	63.0	64.2	-1.2	77.5	78.7	-1.2
H20	76.2	76.8	-0.6	56.1	56.2	-0.1	71.6	72.7	-1.1	69.8	72.4	-2.6	71.3	72.2	-0.9
H19	79.6	81.5	-1.9	85.1	86.1	-1.0	86.3	86.1	+0.2	74.0	75.4	-1.4	81.1	82.1	-1.0

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【図形】

- ◆ 直径が示されている円の円周の長さを求める問題の正答率は81.6%であり、全国平均を2.3ポイント下回っている。[5(1)]
- ◆ 平行四辺形の作図に用いられている約束や性質の理解についての問題の正答率は47.0%であり、全国平均を5.0ポイント下回っている。[6]

【図形・数量関係】

- ◆ 二つの数量の関係を□, △などの記号を用いて式に表す問題の正答率は79.6%であり、全国平均を2.4ポイント下回っている。[9]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離	
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)			
1 (1)	$46 + 57$ を計算する	2A (2)ア						○		96.9	96.9	0.1	0.1	0.0	0.0
1 (2)	903×6 を計算する	3A (3)イ						○		92.8	92.8	0.2	0.2	0.0	0.0
1 (3)	$9 - 0.8$ を計算する	3A (5)イ						○		85.1	83.8	0.7	0.8	1.3	-0.1
1 (4)	$2 \div 5$ を計算する	4A (5)ウ						○		91.5	91.8	0.8	0.9	-0.3	-0.1
1 (5)	$100 - 20 \times 4$ を計算する				4D (2)ア			○		79.4	80.9	0.4	0.5	-1.5	-0.1
1 (6)	$1 \div 3 + 2 \div 5$ を計算する	5A (4)オ						○		89.1	90.6	1.4	1.1	-1.5	0.3
2 (1)	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ	5A (3)ア						○		72.1	71.9	0.3	0.3	0.2	0.0
2 (2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	5A (3)ア						○		55.0	54.1	0.4	0.4	0.9	0.0
3	示された分数の中から、 $1/2$ より大きいものを選ぶ	5A (4)ア イエ						○		70.9	72.5	0.7	0.6	-1.6	0.1
4 (1)	8m^2 に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ	5B (4)ア						○		81.5	82.3	0.7	0.7	-0.8	0.0
4 (2)	8m^2 に16人いるAの部屋について、 1m^2 当たりの人数を求める式を書く	5B (4)ア						○		60.8	60.8	3.8	3.4	0.0	0.4
5 (1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く			5C (1)エ				○		81.6	83.9	1.2	1.5	-2.3	-0.3
5 (2)	1cm^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	5B (2)アイ						○		81.8	81.1	1.8	1.8	0.7	0.0
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ			4C (1)アイ				○		47.0	52.0	0.5	0.6	-5.0	-0.1
7	縦5cm、横11cm、高さ4cmの直方体の面②になる四角形を選ぶ			2C (1)ウ 4C (2)ア				○		69.8	69.4	0.5	0.7	0.4	-0.2
8	答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を選ぶ				4D (2)ア			○		79.7	81.0	0.8	0.9	-1.3	-0.1
9	正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとしたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶ			5C (1)ア	4D (1)ア 4D (2)ウ			○		79.6	82.0	1.1	1.2	-2.4	-0.1

4 小学校算数B問題

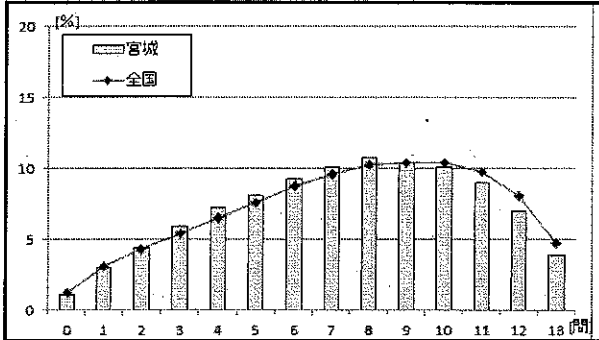
(1) 結果の概要

- 平均正答率は56.8%であり、全国平均とのかい離は平成25年度より0.5ポイント小さくなっているものの、全国平均を1.4ポイント下回っている。
- 平均正答率で全国平均を上回った問題が13問中3問であった。無解答率が10%以上の問題は2問あり、いずれも記述式の問題であった。

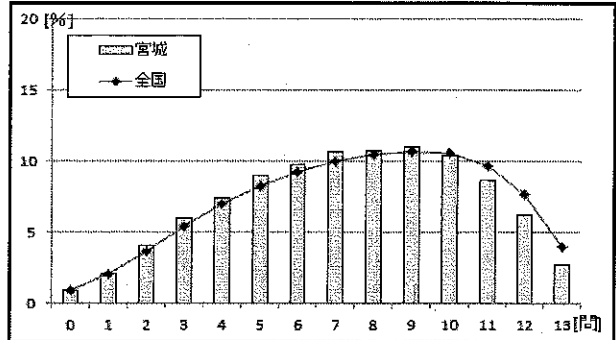
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、10問(70%程度)以上正答している児童の割合が低い状況が見られ、全体的な底上げが必要である。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「図形」を除く3領域で平均正答率が、全国平均を下回っているものの、「量と測定」の領域ではかい離は小さくなっている。

年度	数と計算			量と測定			図形			数量関係			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H26	59.7	61.3	-1.6	55.5	56.5	-1.0	65.8	65.7	+0.1	54.4	56.2	-1.8	56.8	58.2	-1.4
H25	46.7	48.3	-1.6	54.0	56.0	-2.0	78.2	79.3	-1.1	52.9	54.9	-2.0	56.5	58.4	-1.9
H24	52.5	54.0	-1.5	60.2	60.8	-0.6	63.2	63.3	-0.1	48.1	49.5	-1.4	58.1	58.9	-0.8
H22	54.8	55.8	-1.0	30.6	33.3	-2.7	40.3	42.0	-1.7	52.8	54.3	-1.5	47.8	49.3	-1.5
H21	55.0	55.8	-0.8	58.7	59.9	-1.2	54.6	56.4	-1.8	57.1	56.8	+0.3	54.0	54.8	-0.8
H20	64.3	65.2	-0.9	51.9	53.3	-1.4	59.9	61.2	-1.3	43.8	44.9	-1.1	50.4	51.6	-1.2
H19	55.0	58.9	-3.9	55.7	58.0	-2.3	71.0	72.5	-1.5	63.9	65.5	-1.9	61.4	63.6	-2.2

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と計算】

◆ 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述する問題の正答率は52.5%であり、全国平均を2.7ポイント下回っている。[1(2)]

◆ 10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択する問題の正答率は53.7%であり、全国平均を3.0ポイント下回っている。

[3(2)]

◆ 示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択する問題の正答率は43.7%であり、全国平均を2.4ポイント下回っている。[5(2)]

【量と測定】

◆ 示された情報を基に、条件に合う時間を求める問題の正答率は35.4%であり、全国平均を3.2ポイント下回っている。[3(1)]

【数と計算・数量関係】

◆ 繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求める問題の正答率は58.7%であり、全国平均を3.5ポイント下回っている。[4(1)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無回答率の かい離
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	宮城県 (公立)	全国 (公立)	宮城県 (公立)	全国 (公立)		
1 (1)	示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ	3A (3)ア				○			94.6	94.6	0.2	0.3	0.0	-0.1
1 (2)	二人の説明を基に、 37×24 の積が888になることを書く	2A (1)エ 3A (3)ウ			4D (3)ア		○		52.5	55.2	6.7	6.0	-2.7	0.7
2 (1)	6・7月の水の使用量 1500m^3 は、プールに入る水の量 250m^3 の何倍かを求める式と答えを書く	4A (3)イエ	5B (2)ア				○		82.3	82.5	3.2	3.0	-0.2	0.2
2 (2)	1日盛りを 50m^3 として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く		5B (2)ア		3D (3)ア		○		67.0	69.1	3.1	2.6	-2.1	0.5
2 (3)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の $\frac{1}{4}$ より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ		5B (2)ア		2D (3)ア 3D (3)ア 4D (4)イ 5D (4)ア		○		62.9	61.5	1.0	1.2	1.4	-0.2
3 (1)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く		3B (3)イ				○		35.4	38.6	4.2	3.4	-3.2	0.8
3 (2)	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	1A (1)キ 2A (1)オ					○		53.7	56.7	1.8	1.8	-3.0	0.0
3 (3)	示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く		2B (2)ア 5B (4)ア				○		29.8	30.6	2.0	1.9	-0.8	0.1
4 (1)	㊸のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	1A (1)イ			4D (1)ア		○		58.7	62.2	1.7	1.7	-3.5	0.0
4 (2)	二人の㊸のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	5A (1)イ					○		61.2	60.5	12.7	12.1	0.7	0.6
5 (1)	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく			2C (1)イ			○		65.8	65.7	5.1	5.2	0.1	-0.1
5 (2)	使いやすい箸の長さの目安を基に、一あたまの長さを表している図を選ぶ	5A (3)ア					○		43.7	46.1	3.2	3.5	-2.4	-0.3
5 (3)	妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く	5A (3)イ			5D (3)		○		31.1	33.0	14.6	13.1	-1.9	1.5

児童質問紙

	質問事項	宮城県	全国	かい離
今回の算数の問題について、言葉や数式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか。(全ての問題で努力した)	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	77.7	79.7	-2.0
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった。	20.3	18.1	2.2
	3 書く問題は全く解答しなかった。	1.7	1.6	0.1
解答時間は十分でしたか。(算数A)	1 時間が余った。	54.6	55.9	-1.3
	2 ちょうどよかった。	35.0	33.5	1.5
	3 やや足りなかった。	8.4	8.3	0.1
	4 全く足りなかった。	1.8	2.0	-0.2
解答時間は十分でしたか。(算数B)	1 時間が余った。	45.0	47.3	-2.3
	2 ちょうどよかった。	30.1	29.1	1.0
	3 やや足りなかった。	18.8	17.9	1.0
	4 全く足りなかった。	5.8	5.3	0.5

5 中学校国語A問題

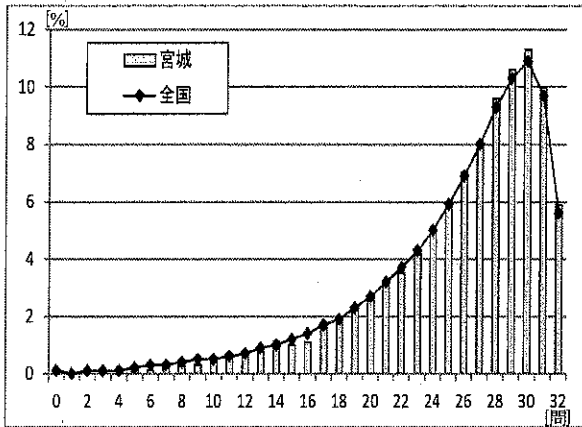
(1) 結果の概要

- 平均正答率は80.3%であり、全国平均を0.9ポイント上回る結果となっている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域において全国平均を上回り、基礎的・基本的な内容に関する知識・技能について、バランスよく定着が図られている。

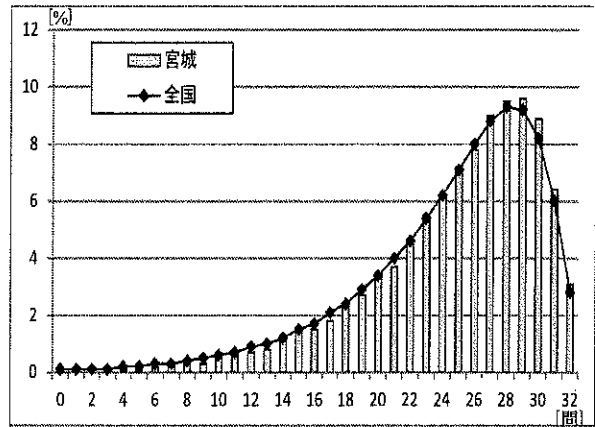
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 28問(85%程度)以上正答した生徒の割合が全国と比べて高く、正答数が16問(50%)以下の生徒の割合は全国より低くなっており、全体的に底上げが図られている。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域において全国平均を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均を1.8ポイント上回っている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)
H26	74.1	72.3	1.8	84.4	83.4	1.0	83.8	82.9	0.9	79.3	78.7	0.6	80.3	79.4	0.9
H25	78.6	77.6	1.0	66.1	64.5	1.6	81.6	80.0	1.6	78.6	77.5	1.1	77.6	76.4	1.2
H24	89.4	87.7	1.7	89.0	88.1	0.9	66.7	65.4	1.3	74.7	73.7	1.0	76.2	75.1	1.1
H22	75.6	74.2	1.4	71.6	71.1	0.5	77.9	76.6	1.3	76.8	75.8	1.0	76.2	75.1	1.1
H21	87.0	86.8	0.2	65.8	64.6	1.2	76.7	75.7	1.0	77.4	76.0	1.4	78.1	77.0	1.1
H20	80.3	80.1	0.2	55.8	55.2	0.6	71.2	71.0	0.2	75.4	75.2	0.2	73.8	73.6	0.2
H19	90.3	90.1	0.2	74.1	73.4	0.7	79.9	80.6	-0.7	78.2	80.3	-2.1	80.8	81.6	-0.8

(4) 設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【話すこと・聞くこと】

- ◇ 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する問題の平均正答率は56.8%であり、全国平均を2.5ポイント上回っている。[6一]
- ◇ 話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす問題の平均正答率は78.5%であり、全国平均を2.5ポイント上回っている。[6二]
- ◇ 報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する問題の平均正答率は82.7%であり、全国平均を2.4ポイント上回っている。[1二]

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◇ 適切な語句を選択する(地域の伝統的な文化を継承する)問題の平均正答率は85.7%で、全国平均を4.9ポイント上回っている。[8三ウ]
- ◇ 漢字を読む(アユの稚魚を放流する)問題の平均正答率は81.2%で、全国平均を4.2ポイント上回っている。[8二1]
- ◆ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(まうけて)問題の平均正答率は73.9%で、全国平均を6.4ポイント下回っている。[8五1]
- ◆ 漢字を書く(地域の人をショウタイする)問題の平均正答率は52.2%で、全国平均を5.4ポイント下回っている。[8二1]

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			問題形式			正答率(%)				正答率の かい離	無回答率の かい離
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)		
1-1	フリップの効果の説明したものと適切なものを選択する	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す	2ウ				○		78.5	78.6	0.1	0.2	-0.1	-0.1
1-2	報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す	1エ				○		82.7	80.3	0.1	0.2	2.4	-0.1
2-1	主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する	心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える	2ウ				○		92.1	90.9	0.2	0.2	1.2	0.0
2-2	仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える	2エ				○		80.2	79.8	10.0	9.2	0.4	0.8
3-1	主人公が「素直りが出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ		○		93.2	91.9	0.1	0.2	1.3	-0.1
3-2	「ひとしくおれの方を見た」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア		○		81.5	79.8	0.1	0.2	1.7	-0.1
3-3	生徒の落書きを見たときの主人公の心情を説明したものと適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ		○		79.9	79.1	0.3	0.4	0.8	-0.1
4-1	ウェブページの項目として適切なものを選択する	集めた材料を分類するなどして整理する	1イ				○		93.9	92.6	0.3	0.4	1.3	-0.1
4-2	主語を書き換えて行事の記録を書き直す	叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える	1エ				○		80.8	80.5	3.1	3.1	0.3	0.0
5-1	「動物」と「外界のもの」との組合せとして適切なものを選択する	抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する			2ア		○		78.6	78.2	0.3	0.4	0.4	-0.1
5-2	「次々に閉鎖化していった」理由を説明したものと適切なものを選択する	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する			2イ		○		86.0	85.6	0.3	0.5	0.4	-0.2
6-1	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	2オ				○		56.8	54.3	5.9	5.9	2.5	0.0
6-2	話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	1オ				○		78.5	76.0	0.9	1.2	2.5	-0.3
7-1	文章を書くために使った付箋として適切なものを選択する	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる	2ア				○		85.5	84.6	0.4	0.6	0.9	-0.2
7-2	文章の構成を捉える理由として適切なものを選択する	書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す	2オ				○		74.0	72.1	0.9	1.0	1.9	-0.1
8-1	漢字を書く(地域の人をショウタイする)	文脈に即して漢字を正しく書く			2(1)ウ(イ)		○		52.2	57.6	16.2	12.3	-5.4	3.9
8-2	漢字を書く(円のハンケイを求める)		2(1)ウ(イ)		○			59.1	59.5	3.1	3.3	-0.4	-0.2	
8-3	漢字を書く(計画を行動にウツす)		2(1)ウ(イ)		○			75.3	73.6	11.5	10.9	1.7	0.6	
8-2-1	漢字を読む(アユの稚魚を放流する)		2(1)ウ(ア)		○			81.2	77.0	6.6	7.7	4.2	-1.1	
8-2-2	漢字を読む(このホールは音響効果が良い)		2(1)ウ(ア)		○			90.6	88.6	3.5	4.1	2.0	-0.6	
8-2-3	漢字を読む(新記録に読む)		2(1)ウ(ア)		○			96.5	95.2	0.8	1.3	1.3	-0.5	
8-3ア	適切な語句を選択する(よい結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に試験を進めるべきだ)		語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	1(1)イ(ウ)		○			58.8	59.2	0.8	1.0	-0.4	-0.2
8-3イ	適切な語句を選択する(先のことは分からないが、とりあえず準備だけはしておく)			1(1)イ(ウ)		○			97.0	96.2	0.3	0.6	0.8	-0.3
8-3ウ	適切な語句を選択する(地域の伝統的な文化を継承する)			2(1)イ(イ)		○			85.7	80.8	0.5	0.8	4.9	-0.3
8-3エ	適切な語句を選択する(笑い声が満ちている家には幸運が訪れることを、「笑う門には福来たる」という)			1(1)イ(ウ)		○			90.5	89.5	0.5	0.7	1.0	-0.2
8-3オ	適切な敬語を選択する(お客様、私が校内をご案内します)		2(1)イ(ア)		○			94.3	93.0	0.5	0.8	1.3	-0.3	
8-3カ	適切な語句を選択する(あの人は、黒刀直入にものを言う)		1(1)イ(ウ)		○			86.5	86.3	0.8	1.1	0.2	-0.3	
8-3キ	適切な語句を選択する(忙しい兄は、休日にのびのびと羽を伸ばす)		1(1)イ(ウ)		○			93.6	92.1	0.7	1.0	1.5	-0.3	
8-4	国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く(英気を養う)	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く			2(1)イ(イ)		○		62.0	59.9	11.7	12.3	2.1	-0.6
8-5-1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(まうけて)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む			1(1)ア(ア)		○		73.9	80.3	8.4	7.0	-6.4	1.4
8-5-2	古文に当てはまる言葉を菅語の中から抜き出す	古典と菅語とを対応させて内容を捉える			2(1)ア(イ)		○		73.9	71.0	8.5	9.0	2.9	-0.5
8-6	文字を書く際に生かしたアドバイスとして適切なものを選択する	文字の大きさ、配列などに注意して書く			1(2)ア		○		77.0	77.6	1.2	1.6	-0.6	-0.4

6 中学校国語B問題

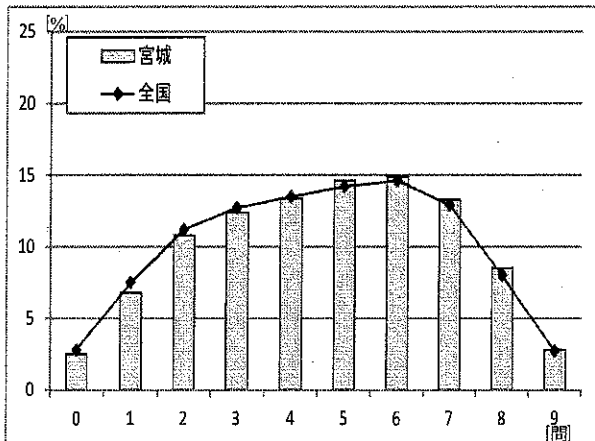
(1) 結果の概要

- 平均正答率が52.0%であり、全国平均を1.0ポイント上回っている。
- 「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域の平均正答率が、全国平均を上回っている。
- 全ての設問において、無解答率が全国平均を下回っている。

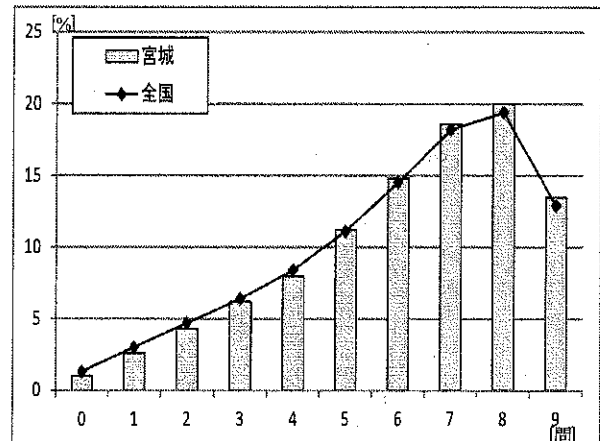
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 5問(60%程度)以上正答した生徒の割合が全国と比べて高く、特に5問から7問(60%~80%程度)正答した生徒の割合が高くなっている状況が見られる。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において全国平均を上回っており、全体的に底上げが図られている。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、平成25年度と比べて全国平均とのかい離がマイナスからプラスに転じており改善が図られている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H26				43.1	41.0	2.1	50.5	49.2	1.3	57.6	56.8	0.8	52.0	51.0	1.0
H25				63.9	62.7	1.2	69.2	67.8	1.4	64.2	64.6	-0.4	68.6	67.4	1.2
H24	61.9	59.9	2.0	59.1	57.4	1.7	64.0	61.5	2.5				65.5	63.3	2.2
H22	47.5	45.6	1.9	62.8	60.2	2.6	68.8	67.5	1.3				66.7	65.3	1.4
H21				75.0	72.5	2.5	76.4	74.5	1.9				76.4	74.5	1.9
H20				48.1	46.7	1.4	61.8	60.8	1.0	63.1	60.5	2.6	61.8	60.8	1.0
H19	81.8	81.3	0.5	63.4	64.4	-1.0	69.8	70.6	-0.8	67.4	68.5	-1.1	71.0	72.0	-1.0

(4) 設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【話すこと・聞くこと】(設問なし)

【書くこと】

- ◇ ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く問題の平均正答率が50.8%であり、全国平均を2.6ポイント上回っている。[1三]

- ◇ 水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く問題の平均正答率が30.7%であり、全国平均を2.3ポイント上回っている。[2三]

【読むこと】

- ◇ 標語から伝わってくるメッセージを書く際に気を付けたこととして適切なものを選択する問題の平均正答率は61.5%であり、全国平均を2.6ポイント上回っている。[1二]

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
			話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化と 国語の特質 に関する事項	選択式	短答式	記述式	宮城県 (公立)	全国 (公立)	宮城県 (公立)	全国 (公立)		
1-1	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	表現の技法について理解する			1(1) イ(オ)		○		64.1	65.3	0.2	0.3	-1.2	-0.1	
1-2	標語から伝わってくるメッセージを書く際に気を付けたこととして適切なものを選択する	文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ			2 エ		○		61.5	58.9	0.3	0.4	2.6	-0.1	
1-3	ノートを基に、標語から伝わってくる(メッセージ)と(表現の工夫とその効果)を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く	2 オ	2 ウ	1(1) イ(オ)		○		50.8	48.2	2.9	3.4	2.6	-0.5	
2-1	本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える			1 イ		○		30.5	31.4	0.4	0.6	-0.9	-0.2	
2-2	本やインターネットの内容から答えが得られるものとして適切なものを選択する	複数の資料から必要な情報を読み取る			1 カ		○		61.2	60.9	0.5	0.7	0.3	-0.2	
2-3	水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く	1 ウ	2 オ			○		30.7	28.4	15.1	16.0	2.3	-0.9	
3-1	演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する	本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る			1 カ		○		53.5	52.0	0.6	0.7	1.5	-0.1	
3-2	殿さまの言葉が表す殿さまの姿として適切なものを選択する	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する			2 イ	2(1) ア(イ)	○		67.9	67.2	0.7	0.8	0.7	-0.1	
3-3	落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く	落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く	1 ウ	2 エ	2(1) ア(イ)		○		47.8	46.5	8.5	8.6	1.3	-0.1	

生徒質問紙

質問事項	宮城県	全国	かい離	
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	71.1	70.4	0.7
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたものがあった。	24.4	24.2	0.2
	3 書く問題は全く解答しなかった。	4.1	4.7	-0.6
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)	1 時間が余った。	56.4	61.8	-5.4
	2 ちょうどよかった。	36.5	31.2	5.3
	3 やや足りなかった。	5.3	4.8	0.5
	4 全く足りなかった。	1.1	1.2	-0.1
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)	1 時間が余った。	38.6	44.4	-5.8
	2 ちょうどよかった。	37.8	35.1	2.7
	3 やや足りなかった。	19.7	16.3	3.4
	4 全く足りなかった。	3.1	3.1	0.0

7 中学校数学A問題

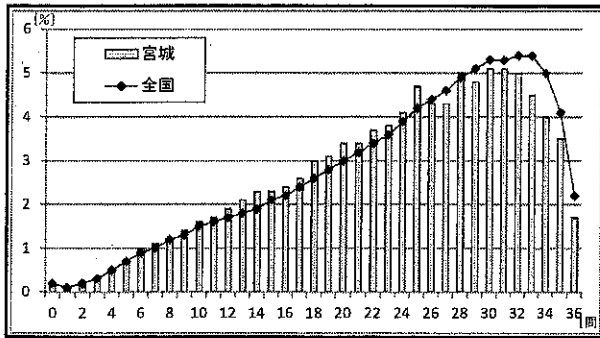
(1) 結果の概要

- 平均正答率は65.6%で、全国平均を1.8ポイント下回っている。全国平均とのかい離は、昨年度より0.3ポイント大きくなっており、課題が見られる。
- 全国平均とのかい離は、「図形」領域を除く3領域で、昨年度より大きくなっている。
- 4領域において、全国平均とのかい離が5ポイント以上ある設問が1問ないし2問ある。

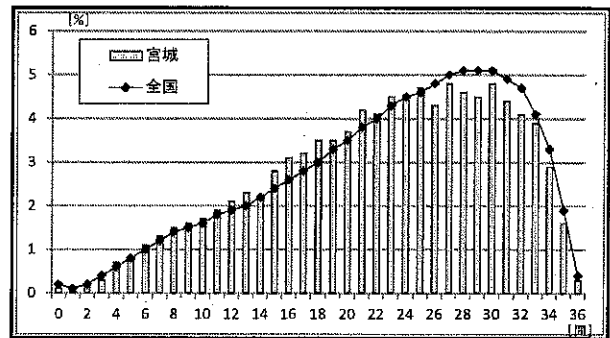
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、26問(70%程度)以上正答している生徒の割合が低く、9問～25問(25%～70%程度)正答している生徒の割合がやや高くなっている。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 4領域とも、全国平均より1.2ポイント以上下回っている。
- 「図形」領域の平均正答率は全国平均を下回ったが、全国平均とのかい離が0.2ポイント小さくなっている。

年度	数と式			図形			関数			資料の活用			合計		
	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)
H26	75.5	77.4	-1.9	65.2	66.4	-1.2	56.0	58.0	-2.0	56.7	59.1	-2.4	65.6	67.4	-1.8
H25	71.7	72.7	-1.0	63.2	64.6	-1.4	57.0	58.7	-1.7	45.1	46.8	-1.7	62.2	63.7	-1.5
	数と式			図形			数量関係						合計		
H24	66.1	67.5	-1.4	66.2	66.7	-0.5	50.3	52.1	-1.3				60.8	62.1	-1.3
H22	74.7	75.2	-0.5	63.8	64.3	-0.5	54.6	54.3	0.3				64.4	64.6	-0.2
H21	66.0	67.3	-1.3	64.8	64.6	0.2	55.7	56.2	-0.5				62.1	62.7	-0.6
H20	65.4	68.0	-2.6	61.6	62.7	-1.1	57.3	58.6	-1.3				61.4	63.1	-1.7
H19	72.4	74.4	-2.0	73.7	75.5	-1.8	64.4	65.9	-1.5				70.3	71.9	-1.6

(4) 設問別の調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇:かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と式】

- ◆ 指数を含む正の数と負の数の計算問題の平均正答率は65.3%であり、全国平均を5.4ポイント下回っている。[1(2)]
- ◆ 分数を含む一元一次方程式を解く問題の平均正答率53.4%であり、全国平均を6.1ポイント下回っている。[3(2)]

【図形】

- ◆ 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は32.9%であり、全国平均を5.8ポイント下回っている。[5(4)]

【関数】

- ◆ 比例の関係を式に表す問題の平均正答率は50.3%であり、全国平均を6.4ポイント下回っている。[10(1)]
- ◆ 反比例について、グラフと表を関連付けて理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は40.5%で、全国平均を5.2ポイント下回っている。[10(4)]

【資料の活用】

- ◆ ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は46.6%で、全国平均より5.4ポイント下回っている。[13(2)]
- ◆ 樹形図を利用して確率を求める問題の平均正答率は59.2%で、全国平均を5.9ポイント下回っている。[14(2)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)		
1 (1)	$3/4 \div 5/6$ を計算する	小6 (1)イ						○	82.6	85.8	3.7	2.8	-3.2	0.9
1 (2)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	1 (1) ウ						○	65.3	70.7	1.5	1.5	-5.4	0.0
1 (3)	-7の絶対値を書く	1 (1) ア						○	83.8	81.0	5.0	5.9	2.8	-0.9
1 (4)	35を基準にして38を正の数で表す	1 (1) ア,エ						○	91.2	91.1	2.2	2.3	0.1	-0.1
2 (1)	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	1 (2) エ						○	41.7	45.2	12.5	11.1	-3.5	1.4
2 (2)	$10xy + 5x$ を計算する	2 (1) ア						○	87.9	90.7	2.6	2.4	-2.8	0.2
2 (3)	$a=2, b=3$ のときの式 ab^2 の値を求める	2 (1) イ						○	81.9	82.6	6.6	5.9	-0.7	0.7
2 (4)	男子 m 人と女子 n 人が1人2個ずつ持った風船の合計数を、 m と n を用いて表した式を選ぶ	2 (1) イ					○	90.8	91.2	0.3	0.4	-0.4	-0.1	
3 (1)	一元一次方程式を解くとき、移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ	1 (3) イ					○	90.1	89.7	0.4	0.6	0.4	-0.2	
3 (2)	一元一次方程式 $(x-1)/3=2$ を解く	1 (3) ウ					○	53.4	59.5	14.9	12.4	-6.1	2.5	
3 (3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	2 (2) ウ					○	74.1	74.1	0.8	1.0	0.0	-0.2	
3 (4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y=3x-2 \\ y=2x+3 \end{cases}$ を解く	2 (2) ウ					○	63.7	67.2	10.9	10.0	-3.5	0.9	
4 (1)	線対称な図形を完成する	小6 (1)イ						○	94.1	93.8	2.4	2.5	0.3	-0.1
4 (2)	与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ	1 (1) ア					○	55.1	56.0	0.5	0.7	-0.9	-0.2	
4 (3)	与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ	1 (1) イ					○	40.7	42.5	0.3	0.6	-1.8	-0.3	
5 (1)	直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く	1 (2) ア					○	80.3	81.0	4.0	4.2	-0.7	-0.2	
5 (2)	三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ	1 (2) イ					○	83.5	84.8	0.3	0.5	-1.3	-0.2	
5 (3)	円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径を読み取る	1 (2) イ					○	66.9	67.7	7.3	7.4	-0.8	-0.1	
5 (4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	1 (2) ウ					○	32.9	38.7	0.6	0.7	-5.8	-0.1	
6 (1)	長方形ABCDにおいて、 $AC=BD$ が表す性質を選ぶ	2 (2) ウ					○	60.0	61.7	0.4	0.6	-1.7	-0.2	
6 (2)	三角形の外角について、正しい記述を選ぶ	2 (1) ア					○	71.6	73.4	0.8	1.0	-1.8	-0.2	
6 (3)	n 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ	2 (1) イ					○	47.3	47.8	0.8	1.0	-0.5	-0.2	
7	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	2 (2) ウ					○	73.3	73.1	0.7	0.9	0.2	-0.2	
8	証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する	2 (2) イ,ウ					○	76.5	75.8	7.3	7.2	0.7	0.1	
9	与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	1 (1) ア					○	36.6	35.8	17.9	17.9	0.8	0.0	
10 (1)	$x=2, y=6$ の比例の式を求める	1 (1) エ					○	50.3	56.7	15.6	13.0	-6.4	2.6	
10 (2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	1 (1) イ					○	75.1	75.9	0.8	1.1	-0.8	-0.3	
10 (3)	$s=vt$ を基に、速さ v が一定のとき、時間 t と道のり s の関係について、正しい記述を選ぶ	1 (1) エ					○	60.4	60.4	1.3	1.5	0.0	-0.2	
10 (4)	反比例のグラフから表を選ぶ	1 (1) エ					○	40.5	45.7	1.6	1.7	-5.2	-0.1	
11 (1)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	2 (1) イ					○	45.2	47.3	1.6	1.8	-2.1	-0.2	
11 (2)	一次関数 $y=3x-4$ のグラフを選ぶ	2 (1) イ					○	75.8	75.1	1.2	1.4	0.7	-0.2	
12	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点を選ぶ	2 (1) ウ					○	64.0	66.7	2.4	2.5	-2.7	-0.1	
13 (1)	生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	1 (1) ア					○	44.7	42.7	17.2	16.7	2.0	0.5	
13 (2)	ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ	1 (1) ア					○	46.6	52.0	1.7	1.8	-5.4	-0.1	
14 (1)	両ひょうを投げた実験結果から、上向きになる確率を選ぶ	2 (1) ア					○	76.5	76.6	1.9	2.0	-0.1	-0.1	
14 (2)	樹形図を利用して、3枚の硬貨を同時に投げるとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める	2 (1) ア					○	59.2	65.1	11.6	10.6	-5.9	1.0	

8 中学校数学B問題

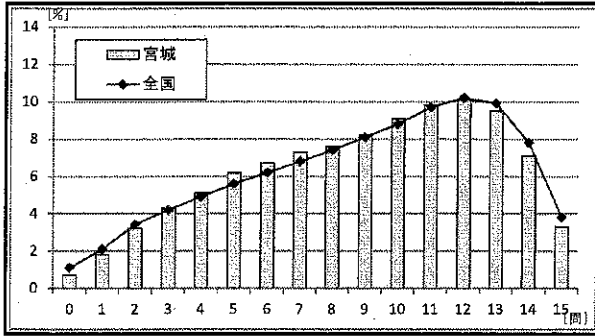
(1) 結果の概要

- 平均正答率は59.4%で、全国平均を0.4ポイント下回っている。全国平均とのかい離は、昨年度より1.4ポイント小さくなっており、改善が図られつつある。
- 「関数」領域の全ての問題で、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 全国平均とのかい離が3ポイント以上大きくなっている問題が、「数と式」領域に1問、「図形」領域に2問ある。

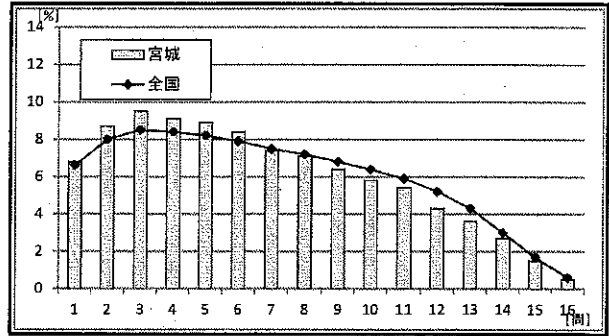
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比べ、13問(85%程度)以上正答した生徒の割合が低く、4問～8問(25%～50%程度)正答している生徒の割合が高くなっている。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「数と式」領域の平均正答率は全国平均を下回っているが、全国平均とのかい離が3.4ポイント小さくなっている。
- 「図形」と「資料の活用」の領域の平均正答率は、平成25年度は全国平均を上回っていたのに対し、平成26年度は全国平均を下回り、課題がみられる。
- 「関数」領域の平均正答率は、全国平均を1.3ポイント上回っている。

年度	数と式			図形			関数			資料の活用			合計		
	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)
H26	54.7	56.9	-2.2	57.4	58.6	-1.2	65.7	64.4	1.3	55.4	55.9	-0.5	59.4	59.8	-0.4
H25	36.1	41.7	-5.6	45.8	44.8	1.0	39.2	40.0	-0.8	42.7	42.2	0.5	39.7	41.5	-1.8
	数と式			図形			数量関係						合計		
H24	41.4	40.9	0.5	61.8	59.7	2.1	30.9	39.8	0.1				50.5	49.3	1.2
H22	43.5	43.2	0.3	41.1	40.2	0.9	46.2	45.5	0.7				44.0	43.3	0.7
H21	61.6	61.4	0.2	58.8	57.5	1.3	54.7	54.1	0.6				57.7	56.9	0.8
H20	53.8	54.2	-0.4	59.2	57.6	1.6	44.2	44.7	-0.5				49.1	49.2	-0.1
H19	45.5	48.2	-2.7	54.0	53.1	0.9	67.0	67.9	-0.9				59.4	60.6	-1.2

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇:かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と式】

- ◆ 与えられた証明の道筋を読み取り、式を適切に変形することで、その証明を完成することができるかどうかをみる問題の平均正答率は55.0%で、全国平均を6.2ポイント下回っている。[2(1)]

【図形】

- ◆ 事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができるかどうかをみる問題の平均正答率は57.6%で、全国平均を3.0ポイント下回っている。[1(3)]

- ◆ 付加された条件の下で、証明を振り返って考え、証明された事柄を用いることができるかどうかをみる問題の平均正答率は20.3%で、全国平均を3.0ポイント下回っている。[4(2)]

【関数】

- ◇ 与えられたグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題の平均正答率は65.0%で、全国平均を2.3ポイント上回っている。[6(1)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)		
1(1)	案内図を基に、経路を示すはり紙を選ぶ		1(2) ア、イ			○			77.7	77.0	0.2	0.3	0.7	-0.1
1(2)	外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ		1(2) ア、イ			○			93.6	92.8	0.3	0.4	0.8	-0.1
1(3)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する		1(2) ア、イ				○		57.6	60.6	13.2	12.7	-3.0	0.5
2(1)	2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m+2n$ を変形する	2(1) イ、ウ					○		55.0	61.2	9.0	9.3	-6.2	-0.3
2(2)	2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める	2(1) イ、ウ					○		65.3	65.4	8.7	9.0	-0.1	-0.3
2(3)	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	2(1) イ、ウ					○		43.8	44.2	6.5	6.3	-0.4	0.2
3(1)	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める			1(1) ウ			○		88.9	87.5	4.9	5.8	1.4	-0.9
3(2)	大地さんの求め方を基に、ウェブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する			1(1) ア、エ			○		62.4	62.3	30.6	30.1	0.1	0.5
4(1)	2つの線分の長さが等しいことを証明する		2(2) イ、ウ					○	37.8	39.4	22.0	22.5	-1.6	-0.5
4(2)	$\angle BAC=110^\circ$ 、 $BD=AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める		2(2) ア、ウ					○	20.3	23.3	28.1	25.8	-3.0	2.3
5(1)	スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める			2(1) ア			○		79.8	79.7	4.0	4.8	0.1	-0.8
5(2)	1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する			2(1) イ				○	31.0	32.1	6.6	7.3	-1.1	-0.7
6(1)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める			2(1) イ、エ			○		65.0	62.7	7.4	9.0	2.3	-1.6
6(2)	兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ			2(1) イ、エ			○		81.7	79.8	1.8	2.5	1.9	-0.7
6(3)	兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する			2(1) イ、エ				○	30.4	29.9	16.2	17.5	0.5	-1.3

生徒質問紙

質問事項	宮城県	全国	かい離	
今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	56.7	57.7	-1.0
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった。	37.3	35.7	1.6
	3 書く問題は全く解答しなかった。	5.7	6.0	-0.3
調査問題の解答時間は十分でしたか(数学A)	1 時間が余った。	52.6	58.7	-6.1
	2 ちょうどよかった。	37.0	32.2	4.8
	3 やや足りなかった。	8.1	6.7	1.4
	4 全く足りなかった。	1.9	1.8	0.1
調査問題の解答時間は十分でしたか(数学B)	1 時間が余った。	39.1	44.6	-5.5
	2 ちょうどよかった。	35.0	33.1	1.9
	3 やや足りなかった。	21.1	17.5	3.6
	4 全く足りなかった。	4.5	4.4	0.1

III 類似（同一）問題の比較

(1) 小学校国語

A 5 登場人物の相互関係を捉える

平成22年度の類似問題である。平成22年度調査での正答率は63.6%であったが、今年度調査では63.9%であった。平成22年度；平成26年度とも、全国平均とのかい離が-1.4ポイントであった。

物語の登場人物の相互関係を捉えることに課題があり、物語を読むときの基本となる登場人物の人物像や相互関係を捉える指導について、一層の指導の充実が必要である。

物語などの文学的な文章は、登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながらかく読むことが重要である。中心人物を押さえ、その人物と周囲の主な登場人物について、行動や会話文、情景描写などに着目しながら、それぞれの人物像が分かる言葉をカードに書き出し、整理するなどの指導が考えられる。その際、その中心人物を取り巻く登場人物がその中心人物をどのように見ているのか、物語の進行に伴ってどのように変化していくのかに着目できるようにすることが大切である。

H26小国A5

5

次は、「かくれんぼう」という題名の物語の一部です。
 中には、「よし子」「ジョール」「オデット」という人物の名前が入ります。それぞれに当てはまる名前を書きましょう。ただし、同じ名前は一回しか入りません。

ア

イ

ウ

■物語のこれまでのあらすじ

登場人物は、よし子、フランス人のジョールとその妹のオデットです。三人は、かくれんぼうをして遊んでいます。おにのジョールは、よし子とオデットを同時に見つけました。そこで、二人はジョールにどちらを先に見つけたのかたずねています。

よし子もオデットさんも耳をすまし、ジョールさんの口から出る言葉を待っている。

しばらくして、

「オデットだ。」

と、ジョールさんはきつぱり言い切った。緊張はゆるむ。

「ジョールはうそ。いやだわ、私！」

オデットさんはまゆ根を寄せ、かたに付くほど首をかたむけ、後ろ手に門の戸をすって横歩きしながら、泣きだしそうな顔をした。

よし子は、気の毒そうに、だまってしばらくそれを見ていたが、

「そんなら、いいわ。私、おにになるわ。」

と言った。

「ア、ずるい。」

兄さんは妹をにらんだ。

「いいことよ、私がおにになるから。早くおにげなさい。ね、早くおにげなさい。私、ここにこうしているから。」

「イ は、両の手を顔に当てて後ろを向いた。」

「オデット、おいで。」

「ウ さんは不興気に言った。」

※1 「まゆ根を寄せ」：いやなことに對して顔をしかめること。

※2 「後ろ手」………手を背中に回すこと。

※3 「不興気」………おもしろくないさそうな様子。

(志賀直哉「かくれんぼう」による)

(全国) 65.3%
 (県) 63.9%

3

次は、「たったひとり」の伝説」という物語のはじめで、「おじいちゃん」に届いた外国語の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。
 ウ 文中に入る人物を、本文中の言葉を使ってそれぞれ書きましょう。
 ア ・
 イ ・

「読まなくても、見るだけでいい」

おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひとつお見見た。そして、

「やっぱり何が書いてあるか、わかんないよ」

と言って、すぐに紙をおじいちゃんに返した。

もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、どんなでもないことになっていただろう。

ア はこれくらいのことでも、顔をまっ背にして

ウ をしかる。

「なんですか、その態度は。おじいさまに、『やはり、わかりません』と言いなおしなさい」

でも、母さんはそこにはいなかった。

（著者「たったひとり」の伝説」による。）

(全国) 65.0%
 (県) 63.6%

B 1-1 目的に応じて、話し合いの観点を整理する

平成19年度の類似問題である。平成19年度調査での正答率は60.5%であったが、今年度調査では62.7%であった。平成19年度では全国平均とのかい離が-2.4ポイントであり、今年度は-2.5ポイントであった。司会として話し合いの観点を整理することに課題があり、指導の充実が求められる。

複数の発言内容を聞き分け、考えの立場や見解を分類・整理するなどして、適切な観点を設定できるように指導することが大切である。また、各教科等との関連も図りながら、全員が司会の役割を経験する機会を設けるなどして、具体的に指導することが重要である。

B 1-3 立場を明確にして、質問や意見を述べる

平成21年度の類似問題である。平成21年度調査での正答率は26.4%であったが、今年度調査では28.3%であった。平成21年度では全国平均とのかい離が+0.7ポイントであったが、今年度は全国平均とのかい離はない。

相手の発言を引用して質問や意見を述べることに課題があるものの、1つ目の条件である「書き手の立ち場に立って、質問、意見のどちらかを選択した上でその内容を書いている」を満たしている児童の割合が55.5%であることから、一定の立場に立って話し合うことへの理解は進んでいるものと考えられる。

互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べるのが重要であり、話し手の意図を捉えながら聞くとともに、自分の考えとの共通点や相違点を明確にして聞くことができるよう指導することが大切である。

1

第一小学校の六年生の学級では、「卒業文集はパソコンを使ってつくるか、手書きにするか」という議題で、それぞれの立場に分かれて討論会を行っています。次は、そのときの「討論会の様子」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【討論会の様子】①②③④⑤の発言の内容は、あとの問いと関係があります。

パソコンを使う立場の主張

大野 ① はい、ぼくは、パソコンを使う方がよいと思います。手書きは、文字を消したりするのめんどろからです。パソコンであれば、何度でも簡単に書き直すことができます。作業に取り組みやすいと思います。

丸山 ② 私もパソコンを使う方がよいと思います。記念に残る卒業文集なので、読みやすくつくるべきだと考えます。手書きだった去年の卒業文集には読みにくいところがありました。パソコンであれば、文字が上手かどうかに関係なく、文字の形や大きさがそろるので、読みやすくなります。

手書きの立場の主張

平川 ③ はい、ぼくは、手書きの方がよいと思います。六年生のときの手書きの文字をそのまま残した方が、記念に残る卒業文集になると思います。

関口 ④ 私も手書きの方がよいと思います。学校のパソコンは、利用できる場所や時間が限られています。手書きであれば、場所や時間を気にせず、自分のペースで作業を進めることができますので、取り組みやすいと思います。

手書きの立場からパソコンを使う立場への質問や意見

【記念に残る卒業文集のあり方】について

あなた 大野さんの発言に対して、があります。

丸山 ⑤ はい、学校の半分ぐらいの人は、使うことに慣れていないと思います。

谷 ⑥ 丸山さんの発言に対して意見があります。全員がパソコンを使いこなせるわけではないので、作業に時間がかかってしまい、完成がおそくなります。パソコンを使うよりも、手書きの方がスムーズに取り組みるので、手書きがよいと思います。

林 ⑦ 確かに、パソコンを上手に使えない人は時間がかかると思います。そうであれば、使っている人が、そうでない人に教えるのが取り組むこともできると思います。

一 「討論会の様子」の中の司会③の の中には、丸山さん①と平川さん④の発言に共通する観点が入ります。ふさわしい内容を、二人の発言に共通する言葉を使って、十二文字以内で書きましょう。

- 二 「討論会の様子」の中の林さん⑤の質問は、どのようなねらいがあると考えられますか。その説明として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 相手の主張の内容と自分の主張の内容との共通点を知ろうとしている。
 - 相手の主張に対する自分の考えが理解されているかどうか確認しようとしている。
 - 相手の主張の中で述べられていないことがらをもっと詳しく聞き出そうとしている。
 - 相手の主張の中に理由が述べられていないことを明らかにしようとしている。

三 あなたは、「討論会の様子」の中の のところで、大野さん②の発言に対して、手書きの立場から「質問」か「意見」かのどちらかを述べます。解答用紙の の中に「質問」か「意見」かのどちらかを選んで書き、その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

○ 大野さん②の発言の中の言葉を、「」を使って引用して書くこと。なお、「」の中に引用する言葉は二十五文字以内とする。

○ 書き出しの文に続けて、八十文字以上、百字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの文は字数にふくむ。

※左の縦線は下書き用なので、使っても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。歩の印から書きましょう。どこまで符を交えないで、続けて書きましょう。

大野さん②の発言に対して <input type="text"/> があります。
--

160字 80字

H26小国B1一
(全国) 65.2%
(県) 62.7%

H26小国B1三
(全国) 28.3%
(県) 28.3%

H19 小国 B1

1 次の記録は、六年生の大林さんの学年で、「一年生と楽しく交流しよう」という議題について話し合った様子です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

司会

大林

山本

1 司会

全員

2 司会

池田

木村

小松

3 司会

全員

それでは、一年生と楽しく交流するための計画について話し合います。遊びの内容準備の分組、今後の日程の三つについて順番に話し合います。まずは、遊びの内容について話し合います。一年生と六年生がいつしよに遊ぶときに、どんな条件だったらいかが意見をしてみてください。

ぼくは、一年生が遊ぶために、人気がある遊びを考えたいと思います。わたしは、一年生がやりやすいように、ルールの簡単な遊びがいいと思います。そのほかに意見はありませんか。(発言がないのを確かめて) 今出されている条件は、「一年生に人気があること」、「ルールが簡単であること」の二つです。この二つの条件に合った遊びにすることで、話し合いを進めてもいいですか、いいです。

それでは、この二つの条件に合う遊びを考えて、提案してください。ぼくは、ルールが簡単で、とっても人気があるぶんこで遊んだらいいと思います。わたしは、一年生がよくやっていて、ルールが簡単なおにこっこがいいと思います。一年生と親しくなるには、交代で順番にやるような遊びではなくて、一度にたくさんの人で遊べる遊びがいいからです。

それだったら、ぼくは、長なわとびで遊んだらいいと思います。一年生も休み時間によくやっていて、特におずかしいルールもなく、みんながいつせいに遊べるからです。これまでに三つの遊びが提案されました。「ぶんこ」、「おにこっこ」、「長なわとび」です。提案の中には、先に決めた二つの条件以外の新しい条件もふくまれています。それは、ア

ア

3 司会の ア の発言の中に入る適切な言葉を書きましょう。

(全国) 62.9%
(県) 60.5%

H21 小国 B2

2 川口さんの学年では、家族の一員としてできることを考えるために、家庭での過ごし方について調べました。次は、川口さんのグループが集めた資料をもとにした話し合いの様子の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

話し合いの様子の一部

【資料】 家の中のそうじや整とんをする小学校6年生の割合

	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない	無回答など
平成16年	15%	52%	24%	9%	0%
平成17年	14%	48%	29%	8%	1%

【調査方法】 調査対象は、調査対象地域の小学校6年生。調査方法は、調査対象地域の小学校6年生を対象としたアンケート調査による。

司会 ここからは、川口さんたちが集めた「資料」をもとにして、「家の中のそうじや整とん」について話し合います。「資料」を見て分かったことや考えたことを発表してください。

川口 平成十六年を見ると、「いつもしている」人が少ないと思います。家の中のそうじや整とんはむずかしいことではないと思います。家族の一員としての自覚をもって積極的に取り組むべきではないでしょうか。

松山 確かに、平成十六年の「いつもしている」は十五%しかいません。でも、「ときどきしている」を合わせると六十七%もいます。むしろ、よく取り組んでいるほうだと思います。

村田 二人は、平成十六年の割合から考えた意見を出してくれましたが、平成十七年の割合からも考えてみてください。

わたしは、平成十七年の「あまりしていない」と「まったくしていない」に注目しました。この二つを合わせると、三十七%にもなります。しかも、平成十六年よりも増えているので、もっと取り組んだほうがいいと思います。

あなたの発表

ア

ア

二 あなたは、ア のところで、前のページの A にある A の意見の立場から発表することになりました。あなたならどのような内容を発表しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

条件

- 平成十七年の割合(%)を取り上げる
- 六十文字以上八十文字以内にとめて、発表するよびに書くこと

(全国) 25.7%
(県) 26.4%

(2) 小学校算数

A[2] (2) 示された図を基に青いテープの長さが白いテープの長さ(80 cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ。

平成24年度の類似問題である。平成24年度の正答率は41.6%であったが、今年度調査では55.0%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が+0.5ポイントであったのに対し、今年度は+0.9ポイントとなった。割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることの理解に課題がある。

誤答については、「4」と解答した反応率が31.7%である。この中には、基準量より比較量が大きいか場合は加法、小さい場合は減法と捉えて選択している児童がいると考えられる。

基準量と比較量の関係を観察し、その関係を的確に捉えて演算の決定が確実にできるようにすることが大切である。

H26 小学校 算数A [2] (2)

下の図のように、白いテープの長さをもとにして、赤いテープと青いテープの長さを表しました。

(2) 青いテープの長さを求める式を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 $80 + 0.6$
- 2 $80 - 0.6$
- 3 80×0.4
- 4 $80 \div 0.4$

(全国) 54.1%
(県) 55.0%

H24 小学校 算数A [3] (2)

赤いテープと白いテープの長さについて、次のことがわかっています。

赤いテープの長さは120 cmです。
赤いテープの長さは、白いテープの長さの0.6倍です。

- 1
- 2
- 3
- 4

(2) 白いテープの長さを求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。

(全国) 41.1%
(県) 41.6%

A[4] (2) 8㎡に16人いるAの部屋について、1㎡あたりの人数を求める式を書く。

平成25年度の類似問題である。平成25年度調査での正答率は48.0%であったが、今年度調査では60.8%であった。平成25年度では、全国平均とのかい離が-2.0ポイントであったのに対し、今年度はかい離がなかった。しかし、単位量当たりの大きさを求める除法の式を立てることには依然として課題が見られる。

誤答については、「4」と解答した反応率が15.2%である。「8㎡」、「16人」の二つの量には着目できているが、1㎡あたりの人数を求めるための式の理解ができていない児童がいると考えられる。

混み具合について、単位量当たりの人数で比べる際、具体的な操作を示すなどしながら等分除の見方と関連付けて捉えられるようにし、的確に式を立て1㎡あたりの人数を求めることが大切である。

H26 小学校 算数A [4] (2)

Aの部屋の1㎡あたりの人数を調べます。
Aの部屋の面積は8㎡で、部屋の中には16人います。

(2) Aの部屋の1㎡あたりの人数を求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。

(全国) 60.8%
(県) 60.8%

H25 小学校 算数A [4]

AとBの2つのシートがあります。

A
6㎡

B
5㎡

下の表は、シートの上に乗っている人数とシートの面積を表しています。

	人数(人)	面積(㎡)
A	12	6
B	8	5

どちらのシートのほうがこんでいるかを調べるために、下の計算をしました。

$$A \quad 12 \div 6 = 2$$

$$B \quad 8 \div 5 = 1.6$$

上の計算からどのようなことがわかりますか。次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1㎡あたりの人数は2人と1.6人なので、Aのほうがこんでいる。
- 2 1㎡あたりの人数は2人と1.6人なので、Bのほうがこんでいる。
- 3 1人あたりの面積は2㎡と1.6㎡なので、Aのほうがこんでいる。
- 4 1人あたりの面積は2㎡と1.6㎡なので、Bのほうがこんでいる。

(全国) 50.0%
(県) 48.0%

(3) 中学校国語

B1 ー 表現の技法について理解する

平成24年度の類似問題である。平成24年度調査での正答率は41.9%であったが、今年度調査では64.1%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が+1.5ポイントであったのに対し、今年度は-1.2ポイントとなった。

比喩や反復などの表現の技法については、その名称を確認するとともに、具体的な表現と結び付けて理解することが大切である。例えば、詩や短歌に用いられている表現の技法を取り上げ、意味や用法を考えながら、その効果について意見を述べ合う学習活動が考えられる。また、いくつかの表現の技法を取り上げて自分の表現に生かす学習活動も有効である。

H26 中国B1-

- 1 反復法
- 2 封切法
- 3 擬人法
- 4 潤滑法

「早川さんのノート」の [] に入る言葉を最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 圖書委員の早川さんは、皆にもっと本を読んでもらうために、社会で取り囲まれていた「読書週間」の標語を提案として標語を作っています。次は、「読書週間」の標語を整理した「早川さんのノート」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。
 「早川さんのノート」

「読書週間」の標語

■ 標語から伝わってくるメッセージと、表現の工夫とその効果について

・ ありますか？好きだといえる1冊が：

(メッセージ) ↓ お気に入りの一冊をもつことは人生を豊かにする。この機会に本をたくさん読んで好きな一冊を見つけてほしいというメッセージが伝わる。

(表現の工夫) ↓ 呼びかけの形で始めることで、読む人の関心を引いているところがよい。

(その効果) ↓ 五七五のリズムも親しみがもてる。

・ 風もページをめくる秋

(メッセージ) ↓ 秋はさわやかな季節なので、たまには快い風の中で本を読み、リラックスした時間を過ごしてみようかというメッセージが伝わる。

(表現の工夫) ↓ [] を使って、情景を豊かに想像できるようにしている。また、俳言止めが使われ、秋が強調されている。

(その効果) ↓

・ 本と旅する 本を旅する

(メッセージ) ↓ × 本と旅したり、本を旅したりするのはよいというメッセージが伝わる。

○ 旅の途中、本を読むのは楽しいことだ。また、旅をしながらも、本を読めば未知の世界を知ることができる。このメッセージが伝わる。
 「本」と「旅する」という言葉のつなげ方を一文字変えて繰り返すことで、心地よいリズムが生まれている。

(全国) 65.3%
 (県) 64.1%

2 中華系の長寿さんは、小学生のときから担任の先生と親交を結んでいます。長寿さんの「手紙の書き方の一冊」で、これを学ぶことが、長寿さんの願いに答えること。

手紙の書き方の一冊

拝啓

ようやく春めいてまいりました。松山先生、いかがお過ごしですか。きょうはいつもの優しい笑顔で授業をしてくれていると思います。

私は三年生になり、勉強と部活動とも両立させ、充実した中学校生活を送っています。

三 長寿さんは、文章を練習して、「一冊」を書き終えたいと思っています。そのためには、次のように書きたいです。書きたいことは、文章を練習して、「一冊」を書き終えたいと思っています。そのためには、次のように書きたいです。書きたいことは、文章を練習して、「一冊」を書き終えたいと思っています。そのためには、次のように書きたいです。

六ヶ王のとき僕は学校で川原の土管にも、よくしがねを出しています。

- 1 習字が共有できる環境を取りたいです。一冊読みかきもつと、読んでも書かなくてもいいです。
- 2 中学校生活の機嫌を詳しく書いてほしいです。習字と長寿さんの「一冊」は、長寿さんの机に置いてほしいです。
- 3 習字に対する自分の感想やその理由を添えてほしいです。より読者の心を打てるようにしてほしいです。
- 4 習字を添えてくれるようにしてほしいです。習字を添えてくれるようにしてほしいです。

(全国) 40.4%
(県) 41.9%

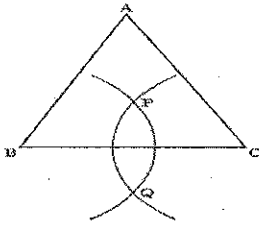
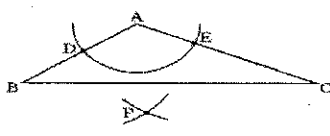
(4) 中学校数学

A[4] (2) 与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ。

平成24年度の類似問題である。平成24年度調査での正答率は56.1%であったが、今年度調査では55.1%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が-0.2ポイントであったのに対し、今年度は-0.9ポイントとなった。線分の垂直二等分線の作図の方法についての理解に課題がある。

誤答については、「イ」を選択した反応率が19.2%である。また、「ア」を選択した反応率が14.1%である。さらに、「ウ」を選択した反応率が11.1%である。これらの中には、①、②の手順で作図された図形の特徴を捉えずに、見た印象だけで判断した生徒がいると考えられる。

基本的な作図の学習において、作図した図形の特徴を作図の方法に基づいて捉え、何が作図できたのかを理解できるように指導することが大切である。

<p>H26 数学A[4] (2) (2) 次の図の△ABCにおいて、下の①、②の手順で直線PQを作図します。</p>  <p>作図の方法</p> <p>① 頂点B、Cを中心として、互いに交わるように等しい半径の円をかき、2つの交点をそれぞれ点P、点Qとする。 ② 点Pと点Qを通る直線をひく。</p> <p>この方法によって作図した直線PQについて、△ABCがどんな三角形でも成り立つことがありますが、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>ア 直線PQは、頂点Aと辺BCの中点を通る直線である。 イ 直線PQは、頂点Aを通り直線BCに垂直な直線である。 ウ 直線PQは、∠BACの二等分線である。 エ 直線PQは、辺BCの垂直二等分線である。</p>	<p>H24 数学A[4] (1) (1) 次の図の△ABCにおいて、下の①、②、③の手順で直線APを作図します。</p>  <p>① 頂点Aを中心として、辺AB、辺ACの両方に交わる円をかき、その円と辺AB、辺ACとの交点をそれぞれ点D、点Eとする。 ② 点D、点Eを中心として、互いに交わるように等しい半径の円をかき、その交点の1つを点Pとする。 ③ 頂点Aと点Pを通る直線をひく。</p> <p>上の①、②、③の手順によって作図した直線APについて、△ABCがどんな三角形でも成り立つことがありますが、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>ア 直線APは、頂点Aを通り直線BCに垂直な直線である。 イ 直線APは、頂点Aと辺BCの中点を通る直線である。 ウ 直線APは、直線BCに平行な直線である。 エ 直線APは、∠CABの二等分線である。</p>
<p>(全国) 56.0% (県) 55.1%</p>	<p>(全国) 56.3% (県) 56.1%</p>

A[5] (4) 円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ。


平成19年度の同一問題である。平成19年度調査での正答率は31.3%であったが、今年度調査では32.9%であった。

平成19年度では、全国平均のかい離が-5.2ポイントであったのに対し、今年度は-5.8ポイントとなった。円錐の体積を、底面が合同で高さが等しい円柱の体積と関連付けて理解することに課題がある。


誤答については、「イ」を選択した反応率が38.5%である。この中には、円柱と円錐の立面図から長方形と三角形の面積比で判断している生徒がいると考えられる。


円柱の体積と円錐の体積との関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる活動を通して、円柱と円錐の関係を実感を伴って理解できるようにすることが大切である。


(4) 下の図は、円柱、円錐の形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で、高さは等しいことがわかっています。この円柱の容器いっぱいに入れた水を円錐の容器に移します。





このとき、下のアからオまでの中に、円柱の容器に入っていた水と同じ量の水を収めている図があります。正しいものを1つ選びなさい。

ア 

イ 

ウ 

エ 

オ 

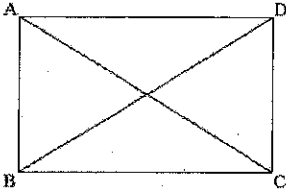
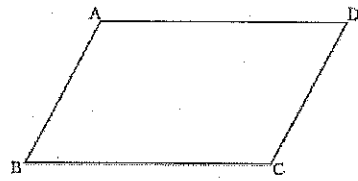
<p>H26 (全国) 38.7% (県) 32.9%</p>	<p>H19 (全国) 36.5% (県) 31.3%</p>
---	---

A6 (1) 長方形 ABCD において、 $AC = BD$ が表す性質を選ぶ。

平成19年度の類似問題である。平成19年度調査での正答率は64.2%であったが、今年度調査では60.0%であった。平成19年度では、全国平均とのかい離が-2.2ポイントであったのに対し、今年度は-1.7ポイントとなった。長方形について、「対角線の長さは等しい」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることについて課題がある。

誤答については、「エ」を選択した反応率が30.2%である。この中には、対角線には着目しているが、記号で表された関係を正しく読み取ることについて課題がある。

図形の構成要素やそれらの関係を記号で表したり、記号で表された図形の構成要素やそれらの関係を読み取ったりすることができるように指導することが大切である。

<p>H26 数学A6 (1)</p> <p>(1) 長方形 ABCD において、$AC = BD$ が成り立ちます。</p>  <p>上の下線部が表しているものを、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。</p> <p>ア 向かい合う辺は平行である。</p> <p>イ 向かい合う辺は等しい。</p> <p>ウ 向かい合う角は等しい。</p> <p>エ 対角線はそれぞれの中点で交わる。</p> <p>オ 対角線の長さは等しい。</p>	<p>H19 数学A6 (3)</p> <p>(3) 下の四角形 ABCD において、「$AB \parallel DC$、$AB = DC$」が成り立っています。このことは平行四辺形になるための条件に当てはまっているので、四角形 ABCD は平行四辺形になることが分かります。</p>  <p>上の下線部「$AB \parallel DC$、$AB = DC$」が表しているものを、下のアからオの中から1つ選びなさい。</p> <p>ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ平行である。</p> <p>イ 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい。</p> <p>ウ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい。</p> <p>エ 対角線がそれぞれの中点で交わる。</p> <p>オ 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しい。</p>
<p>(全国) 61.7%</p> <p>(県) 60.0%</p>	<p>(全国) 64.4%</p> <p>(県) 64.2%</p>

A6 (3) n角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ

平成24年度の同一問題である。平成24年度調査で正答率は46.6%であったが、今年度調査では47.3%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が+0.9ポイントであったのに対し、今年度は-0.5ポイントとなった。n角形の内角の和を求める式 $180^\circ \times (n-2)$ における $(n-2)$ の意味の理解に課題がある。

誤答については、「ア」を選択した反応率が22.7%である。また、「ウ」を選択した反応率が16.0%である。これらの中には、 $(n-2)$ のnが示すものだけに着目した生徒がいると考えられる。

多項式の内角の和を表す式が、多角形を三角形に分割することによって導き出されることを理解できるように指導することが大切である。その際、様々な多角形を考察することを通して、多角形の内角の和を表す式を導いたり、その式の意味を読み取ったりする場面を設定することが考えられる。

(3) 図1のように、n角形を1つの頂点からひいた対角線によって、いくつかの三角形に分けて考えると、n角形の内角の和は、 $180^\circ \times (n-2)$ で表すことができます。

例えば、六角形の場合、図2のようにして内角の和を求めることができます。

$$180^\circ \times (6-2) = 180^\circ \times 4 = 720^\circ$$

n角形の内角の和を表す式 $180^\circ \times (n-2)$ の $(n-2)$ は、n角形において何を表していますか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 頂点の数

イ 辺の数

ウ 内角の数

エ 1つの頂点からひいた対角線の数

オ 1つの頂点からひいた対角線によって分けられた三角形の数

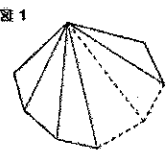


図1

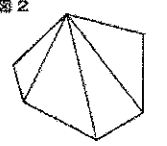


図2

H26 (全国) 47.8% (県) 47.3%

H24 (全国) 45.7% (県) 46.6%

A13 (1) 生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める。

平成25年度の類似問題である。平成25年度調査での正答率は20.5%であったが、今年度調査では44.7%であった。平成25年度では、全国平均とのかい離が-2.3ポイントであったのに対し、今年度は+2.0ポイントとなった。与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることに課題がある。

誤答については、「18」と解答した反応率が19.9%である。この中には、度数分布表の30~40の階級に含まれる度数をそのまま解答した生徒がいると考えられる。

相対度数の必要性と意味についての理解を深めることができるように指導することが大切である。その際、ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れることが考えられる。

<p>H26 数学A13 (1)</p> <p>13 次の(1)、(2)の各問に答えをさい。</p> <p>(1) ある中学校の3年生に対して、通学時間を調査しました。下の度数分布表は、その結果をまとめたものです。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <caption>3年生の通学時間</caption> <thead> <tr> <th>階級(分)</th> <th>度数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>以上 未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0~10</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>10~20</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>20~30</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>30~40</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>40~50</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>50~60</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>30分以上40分未満の階級の相対度数を求めなさい。</p> <p style="text-align: center;">(全国) 42.7% (県) 44.7%</p>	階級(分)	度数(人)	以上 未満		0~10	5	10~20	9	20~30	14	30~40	18	40~50	11	50~60	3	合計	60	<p>H25 数学A14 (2)</p> <p>(2) 下の図は、ある市の平成24年6月1日から30日までについて、日ごとの最高気温の記録をヒストグラムに表したものです。このヒストグラムから、例えば、最高気温が30℃以上32℃未満の日が5日あったことがわかります。</p> <div style="text-align: center;"> <p>最高気温の分布</p> </div> <p>22℃以上24℃未満の階級の相対度数を求めなさい。</p> <p style="text-align: center;">(全国) 22.8% (県) 20.5%</p>
階級(分)	度数(人)																		
以上 未満																			
0~10	5																		
10~20	9																		
20~30	14																		
30~40	18																		
40~50	11																		
50~60	3																		
合計	60																		

A13 (2) ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ。

平成24年度の類似問題である。平成24年度調査での正答率は35.0%であったが、今年度調査では46.6%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が+2.6ポイントであったのに対し、今年度は-5.4ポイントとなった。中央値の意味を理解し、ヒストグラムから中央値が含まれる階級を判断することに課題がある。

誤答については、「ア」を選択した反応率が22.6%である。この中には、中央値をヒストグラムのちょうど真ん中の階級と捉えた生徒がいると考えられる。また、「エ」を選択した反応率が18.5%である。この中には、中央値を平均値と捉えた生徒がいると考えられる。

目的に応じてデータを収集して整理し、資料を代表する値について考察しながら資料の傾向を読み取る活動を通して、代表値の必要性と意味について理解できるように指導することが大切である。

<p>H26 数学A13 (1)</p> <p>(2) 下のヒストグラムは、ある中学校の男子31人のハンドボール投げの記録をまとめたものです。このヒストグラムから、例えば、記録が14m以上16m未満の人は1人いたことがわかります。</p> <div style="text-align: center;"> <p>ハンドボール投げの記録の分布</p> </div> <p>中央値が含まれる階級を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。</p> <p>ア 24m以上26m未満 イ 26m以上28m未満 ウ 28m以上30m未満 エ 30m以上32m未満</p> <p style="text-align: center;">(全国) 52.0% (県) 46.6%</p>	<p>H24 数学A15 (2)</p> <p>(2) ある中学校のバスケットボール部の生徒が、フリースローを10回ずつ行いました。下の図は、ボールの入った回数と人数の関係を表したものです。ボールの入った回数の最頻値を求めなさい。</p> <div style="text-align: center;"> <p>ボールの入った回数</p> </div> <p style="text-align: center;">(全国) 32.4% (県) 35.0%</p>
--	--

IV 児童生徒質問紙調査結果

1 結果の概要

- 小・中学生ともに、朝食を毎日食することなど、基本的な生活習慣に関する質問に対しては、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多い。
 - 家庭で授業の予習、復習をしている割合は、小・中学生ともに全国値を大きく上回っている。
 - 長時間（3時間以上）テレビやビデオ・DVDを見る割合は、小学生は全国値よりは高いものの昨年度より減少し、中学生においては全国値よりも低い。
 - 長時間（3時間以上）携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。
 - 国語の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小・中学生ともに昨年度よりも増加し、中学生においては全国値よりも高い。
 - 算数・数学の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小学生で昨年度よりも減少しており、小・中学生ともに全国値よりも低い。
 - 平日に2時間以上勉強している中学生の割合は、昨年度より減少し、全国値を下回っている。
 - 授業のはじめに目標を示されたり、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思っている割合は、小学生で昨年度より減少し、小・中学生ともに全国値を下回っている。
- ※アンダーラインは、今年度新しく追加された調査項目

2 質問事項別の状況

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

- 小・中学生において、「授業のはじめに目標（ねらい・めあて）が示されていたと思いますか」という質問に肯定的な回答をしている割合が、全国値を下回っている。
- 国語の授業の内容がよく分かると思えた割合は、小・中学生とも昨年度よりわずかに増加し、中学生においては全国値を上回っている。また、算数・数学については、数学がよく分かると思えた割合は、昨年度より増加したものの、算数・数学とも全国値を下回っている。
- 小・中学生において、国語の授業で、自分の考えをその理由が分かるように気をつけて書いていると思えた割合が全国値を上回っている。また、中学生においては文章のまとめりに内容を理解しながら読んでいると思えた割合が、全国値を上回っている。

※表の下段は全国との比較（以下同じ）

質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H26	H25	H24	H22	H21	H20
1 授業のはじめに目標（ねらい・めあて）が示されていたと思いますか	77.5	78.1					67.7	65.0				
	-4.5	-4.4					-3.8	-3.1				
2 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	68.0	73.3					63.0	52.9				
	-3.0	-3.4					-0.3	+1.6				
3 国語の授業の内容はよく分かりますか	78.8	78.4	83.7	82.3	80.1	77.6	74.5	74.3	74.7	71.5	70.1	69.6
	-1.3	-1.5	+0.6	+0.0	+0.1	-0.4	+2.5	+2.4	+3.5	+1.6	+1.3	+2.8
4 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	78.2	78.6	79.5	78.0	80.2	79.2	71.4	70.5	64.1	64.8	62.4	64.5
	-1.4	-1.6	+0.4	+0.8	+1.0	+0.8	-0.1	+0.0	-0.8	-0.9	-2.5	-1.0
5 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。	71.6	68.9	72.0	72.8	66.7	67.2	65.2	66.5	63.3	62.1	58.6	61.4
	+0.9	+0.0	+0.7	+3.6	+0.5	0.1	+4.9	+6.1	+3.9	+4.4	+3.5	5.9
6 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいますか	74.8	72.4	74.9	74.9	70.6	71.7	70.6	67.7	68.5	66.7	63.3	65.6
	-1.0	-0.9	-0.2	+1.5	-0.2	-0.2	+3.1	+3.2	+2.9	+3.0	+2.6	4.1
7 算数・数学の問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか。	77.0	75.4	78.1	77.4	77.6	76.2	70.5	68.2	65.7	68.7	64.9	64.7
	-1.1	-2.0	-1.0	+0.1	+0.8	+0.2	+0.2	+0.9	-0.3	+1.6	+0.1	+1.1
8 言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題についてどのように解答しましたか（最後まで書く努力をした）	77.7	72.9	70.8	60.5	66.4	65.9	56.7	42.9	45.8	45.6	48.4	42.2
	-2.0	-1.5	-1.6	-1.5	-1.6	-1.1	+1.0	-2.0	-0.1	+0.1	+0.4	-0.5

(2) 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション

- 小・中学生ともに、朝食を毎日食べている児童生徒の割合は全国値を上回っている。
- 小学生において、家の人と学校での出来事について話をしている割合が、小・中学生ともに、全国値を上回っている。
- 地域の行事に参加している小学生の割合は、全国値を大きく上回っている。中学生も上回っている。

質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H26	H25	H24	H22	H21	H20
1 朝食を毎日食べていますか	98.8	96.7	96.6	97.4	96.6	96.3	94.6	94.7	94.4	94.5	94.0	93.6
	+0.8	+0.4	+0.5	+1.0	+0.6	+0.9	+1.1	+0.9	+0.8	+1.2	+1.6	+1.7
2 家の人と学校での出来事について話をしていますか	81.8	77.8	77.6	77.0	71.0	70.9	74.2	67.6	66.7	65.1	61.1	60.0
	+1.1	+1.3	+1.7	+2.8	+0.1	+1.7	+1.6	+1.0	+1.0	+1.4	+1.3	+2.1
3 今住んでいる地域の行事に参加していますか	76.0	73.1	73.2	74.4	73.0	71.6	44.2	41.3	37.9	39.5	40.9	39.8
	+8.0	+9.2	+10.0	+12.8	+10.6	+11.7	+0.7	-0.3	+0.2	+5.2	+3.1	+2.8

(3) 学習時間等

- 小学生においては、家で授業の予習、復習をしている割合は、昨年度よりもさらに増加し、全国値を上回っている。しかし、昨年度と比較すると平日に家で勉強する時間が短い方の割合が増えている。中学生においては、2時間以上学習する生徒の割合が昨年度より減り、全国値より下回っている。
- 小・中学生ともに、3時間以上テレビやビデオ・DVDを見る割合は、小学生は全国値より高いものの昨年度より減少し、中学生においては全国値を下回っている。
- 長時間（3時間以上）携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。

質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H26	H25	H24	H22	H21	H20	
1 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	65.7 +4.7	61.3 +2.4	61.1 +3.1	64.7 +6.4	55.5 +0.8	51.5 -0.5	50.4 +3.8	48.5 +4.0	45.6 +2.7	44.3 +2.5	40.1 +2.2	35.8 +1.6	
2 家で学校の授業の予習をしていますか	50.2 +7.0	47.6 +6.3	45.6 +5.1	48.6 +8.2	42.6 +5.1	39.1 +3.7	40.7 +12.5	48.3 +14.8	39.3 +10.0	43.9 +13.0	42.1 +12.6	41.0 +12.6	
3 家で学校の授業の復習をしていますか	66.1 +12.1	61.9 +10.5	59.9 +9.7	61.2 +11.6	54.9 +8.9	50.8 +7.4	63.0 +12.6	60.8 +12.2	56.8 +11.3	54.4 +10.9	49.7 +9.2	48.4 +8.8	
4 普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか	30分以上	90.6 +3.4	90.1 +2.4	89.1 +3.5	88.7 +3.9	86.1 +2.5	83.5 +1.1	85.6 +0.4	85.4 +0.2	84.7 +1.4	83.1 0.0	81.7 -0.2	81.4 -0.7
	1時間以上	64.1 +2.1	64.8 +1.6	61.2 +1.7	61.5 +3.3	56.9 -0.3	52.9 -3.2	66.1 -1.8	66.4 -2.2	65.8 -0.6	63.7 -2.5	62.2 -3.1	63.1 -2.3
	2時間以上	21.4 -2.4	22.0 -5.1	21.3 -4.3	20.8 -4.9	19.7 -6.0	18.8 -6.7	29.6 -5.5	30.7 -5.8	30.0 -5.3	28.5 -7.2	29.1 -6.6	29.8 -5.9
	3時間以上	6.8 -4.4	7.0 -4.5	7.0 -4.1	6.8 -4.6	17.9 -4.9	16.3 -6.4	6.9 -3.5	7.1 -3.4	6.6 -3.3	6.3 -3.9	13.5 -1.9	13.6 -1.5
5 普段1日にどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見ますか（3時間以上）	39.6 +1.6	41.9 +3.3	47.8 +5.1	47.2 +3.9	51.1 +5.4	51.7 +5.6	30.3 -1.2	29.7 +0.0	33.3 +0.8	38.1 +1.6	40.4 +2.4	43.0 +3.4	
6 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（3時間以上）	4.8 -0.2						18.8 -1.0						

(4) 自尊意識・規範意識

- 小・中学生ともに「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた割合は全国値を下回っている。
- 「夢を持っているか」「最後までやり遂げているか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学生は全国値を下回っているものの、昨年度と比較すると増えている。中学生は、肯定的な回答をしている割合は全国値を上回っている。
- 「きまりを守っているか」「いじめは絶対にいけないと思うか」という規範意識に関する質問に対して肯定的な回答をした割合は、おおむね昨年度より上回っているが、小・中学生ともに全国値には届いていない。

質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H26	H25	H24	H22	H21	H20
1 自分には、よいところがあると思う	74.0 -2.1	72.2 -3.5	76.4 -0.4	73.6 -0.8	72.9 -1.7	71.4 -2.0	65.3 -1.8	65.6 -0.8	67.7 -0.5	63.8 +0.7	61.6 +0.4	61.8 +1.0
2 ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか	93.8 -0.6	93.4 -0.9	94.8 +0.3	94.5 +0.4	93.8 +0.0	93.2 -0.3	94.2 +0.3	93.7 0.0	93.4 +0.2	93.6 +0.9	92.9 +1.0	92.9 +1.0
3 将来の夢や目標を持っていますか	86.6 -0.1	86.4 -1.3	86.5 -0.2	86.5 -0.3	85.6 -0.7	84.0 -0.7	72.5 +1.1	73.7 +0.2	73.8 +0.6	72.6 +0.9	71.3 +0.3	72.0 +1.3
4 学校のきまり（規則）を守っていますか	89.9 -0.6	89.6 -1.0	91.2 -0.1	89.4 +0.2	87.6 -0.9	85.7 -0.6	92.5 -0.5	92.2 -0.3	91.2 -1.1	90.5 +0.4	89.3 +0.7	88.0 +0.6
5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	95.7 -0.7	95 -0.9	95.3 -0.1	94.3 -0.7	95.1 +0.2	95.0 +0.3	92.5 -0.9	92.8 -0.7	92.9 -0.1	90.8 -0.3	90.7 +0.4	89.8 +0.3
6 人の役に立つ人間になりたいと思う	92.3 -1.7	91.7 -1.9	94.7 0.0	92.5 -0.9	91.8 -0.7	92.0 -0.4	92.8 -1.2	92.6 -0.7	93.7 -0.2	91.5 -0.6	90.4 0.0	90.6 +0.1

V 学校質問紙調査結果

1 結果の概要

- 「全国学力・学習状況調査の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。
- 国語の指導において、書く習慣を付ける指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高く、特に小学校では大きく上回っている。
- 算数・数学の指導において、補充的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校で昨年度より増加しており、小・中学校ともに全国値よりも高い。
- 算数・数学の指導において、発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校で昨年度より減少しており、小・中学校ともに全国値よりも低い。

2 質問事項別の状況

(1) 指導方法・学習規律

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした学校の割合は、小学校で増加し、小・中学校ともに全国値より高い。経年比較においては、小学校で大きく上昇している。
- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている学校の割合は、小学校で全国値より低く、中学校で全国値と同程度である。
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている学校の割合は、小学校で全国値と同程度であり、中学校で全国値より高い。
- 資料を使って発表できるように指導した学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。経年比較においては、中学校で大きく上昇している。

※ 表の下段は全国との比較（以下同じ）

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか。	86.6	78.6	77.6	72.3	68.1	62.1		96.0	99.0	97.3	94.1	96.8	95.9	
	+14.6	+7.1	+6.3	+1.7	-1.4	-4.1		+11.8	+4.5	+2.0	-2.1	+0.9	+0.0	
2 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れているか。	95.2	96.1						94.1	95.4					
	-1.7	-0.4						-0.1	+2.8					
3 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れているか。	91.6	91.4						91.6	90.9					
	0	-0.6						+2.4	+2.8					
4 資料を使って発表できるように指導したか。	87.3	88	88.8	95.8	94.0			86.6	76.8	82.5	82.3	87.7		
	+11.6	+1.8	-0.4	+5.0	+3.7			+8.5	+0.0	+1.2	+1.7	+6.2		

(2) 国語科、算数・数学科の指導方法、小中連携

- 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った学校の割合は、中学校で増加しているが、小・中学校ともに全国値より低い。
- 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加し、全国値より高い。
- 算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高いが、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、中学校で増加してはいるが、小・中学校ともに全国値より低い。
- 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加し、全国値より高い。経年比較においては、中学校で大きく上昇している。
- 算数・数学の授業で、チームティーチングによる指導を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加し、全国値より高い。経年比較においては、小学校で大きく上昇している。
- 小学校では教科の指導内容や指導方法について中学校と連携を行っている学校は、全国値より低い。中学校では小学校と連携を行っている学校は、増加してはいるが全国値より低い。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか。	82.5	86	89.5	85.4	85.5	87.4	82.6	84.7	78.3	84.6	84.9	85.9	81.4	84.4
	-0.7	+2.3	+6.6	+2.4	+2.2	+4.5	+2.3	-1.4	-5.9	+0.7	+0.2	+3.2	-1.7	+2.3
2 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行ったか。	93.2	89.1	94.0	91.6	88.3	90.1	82.2	96.5	96.0	94.9	94.2	95.0	89.5	85.8
	+2.0	-0.8	+4.2	+2.2	-0.8	+2.7	-1.2	+2.9	+3.8	+3.3	+3.1	+4.1	-0.3	-1.9
3 算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行ったか。	89.8	87.4	91.9	89.6	88.5	93.1	88.8	88.1	88.9	87.3	89.0	88.2	91.8	91.2
	+0.3	+0.1	+3.6	+1.8	+1.8	+3.1	+1.0	+0.5	+2.9	+0.3	+2.4	+2.1	+3.0	+4.5
4 算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行ったか。	64.4	64.7	55.0	58.4	55.4	59.2	56.4	69.4	52.5	59.9	52.6	60.0	55.9	55.1
	-3.9	+0.3	+1.1	+4.5	+0.9	+1.4	-1.9	+1.9	-5.8	-4.6	-4.1	+4.5	-2.2	-4.6
5 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったか。	66.8	66	61.8	61.7	66.0	63.5	62.4	66.3	55.1	64.1	50.1	52.3	53.7	46.2
	+0.6	+2.0	-1.3	-0.9	+4.1	+3.7	+2.3	+5.5	-2.1	-1.4	-1.5	+2.4	+3.9	-2.3
6 算数・数学の授業で、チームティーチングによる指導を行ったか。	66.1	35.3						68.9	52.0					
	+5.7	-4.8						+14.9	+13.6					
7 教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校（中学校）と連携を行ったか。	49.3	53.7	69.4					63.9	51.5	59.8				
	+13.1	-15.5	-8.7					+8.2	-18.0	-18.4				

(3) 調査結果の活用

- 全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。
 - 全国学力・学習状況調査の自校の結果について保護者や地域の人たちに公表や説明を行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より10ポイント以上高い。
 - 全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに働きかけを行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。
 - 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国値より低い。
- ※アンダーラインは、今年度新しく追加された調査項目

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 全国学調の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったか。	97.6	98.1	97.2	100.0	96.7	95.8		97.1	92.4	78.8	85.7	90.0	84.5	
	+0.4	+4.0	+1.7	+0.1	+2.1	+4.0		+1.8	+3.7	-3.2	+4.9	+9.2	+5.6	
2 全国学調の自校の結果について保護者や地域の人たちに公表や説明を行ったか。	94.4							98.8						
	+13.3							+15.0						
3 全国学調や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上等の取組について、保護者や地域の人たちに働きかけたか。	93.4							90.1						
	+8.4							+12.8						
4 全国学調の結果を地方公共団体独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか。	81.9							90.2						
	-7.7							-4.3						

(4) 学力向上に向けた取組

- 学校図書館を活用した授業を計画的に行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より低い。
- 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。
- 長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、小・中学校ともに全国値より低い。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 学校図書館を活用した授業を計画的に行ったか。	30.1	79.1	75.4	77.8	72.6	83.5	56.4	35.1	30.8	30.7	41.6	41.3	28.6	36.0
	-0.4	+0.5	-1.8	-1.0	-5.2	-3.8	-3.5	-9.1	-10.8	-13.2	-4.8	-6.3	-11.1	-2.3
2 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施したか。	76.4	74	70.2	78.5	76.8	58.6	61.0	88.5	88.9	85.2	84.0	85.9	63.6	61.8
	+14.1	+12.3	+8.4	+16.5	+15.9	+16.7	+20.1	+1.7	+2.9	-1.5	-1.5	+2.7	+6.4	+6.4
3 長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施したか。	62.1	61.8	53.3	53.3	46.6	43.0	41.2	74.3	74.7	74.5	73.7	68.6	70.0	68.9
	-4.9	-3.2	-10.1	-5.1	-10.3	-7.0	-6.6	-10.0	-9.4	-9.6	-6.7	-11.6	-7.0	-6.1

(5) 家庭学習・家庭との連携

- 国語の指導で、家庭学習の課題(宿題)を与えた学校の割合は、小・中学校ともに増加しているが、小学校で全国値より高く、中学校で全国値より低い。
- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った学校の割合は、小学校で全国値より高く、中学校で全国値より低い。
- 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えた学校の割合は、小・中学校ともに増加し、全国値より高い。経年比較においては、中学校で大きく上昇している。
- 家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 国語の指導で、家庭学習の課題(宿題)を与えたか。	99.8	99.3	99.2	99.3	99.3	99.6	98.4	95.6	81.3	84.1	96.5	89.1	85.5	78.6
	+0.4	-0.1	-0.1	+0.1	+0.3	+0.9	+1.3	-5.3	-8.3	-4.7	+7.7	+2.1	-1.0	-5.4
2 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったか。	93.6							76.2						
	+3.2							-0.7						
3 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えたか。	82.2	74.6	75.5					68.8	58.6	61.3				
	+4.4	-0.5	+0.8					+4.6	-0.7	+1.4				
4 家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたか。	95.4	93.1	93.2					91.1	91.9	88.4				
	+7.2	+2.2	+3.0					+0.3	+4.8	+1.8				

(6) 教員研修・教職員の取組

- 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている学校の割合は、中学校で増加しているが、全国値より小学校で15ポイント、中学校で13ポイント低く、かい離が大きい。
- 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している学校の割合は、小学校で全国値より低く、中学校で全国値より高い。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っているか。	77.3	77.6	78.1	78.4	73.7	75.0	70.1	71.8	65.2	66.6	71.1	66.4	59.0	63.6
	+6.0	-15.1	-13.9	-13.8	-18.2	-17.1	-20.9	+3.0	-19.2	-17.3	-11.3	-16.2	-23.9	-19.5
2 言語活動に重点を置いた指導計画を作成しているか。	85.6	85.7						87.6	87.4					
	+2.6	-1.4						+7.1	+4.5					

(7) 地域の人材・施設の活用

- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加し全国値より高い。経年比較においては、中学校で大きく上昇している。
- 職場見学や職場体験活動を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加しているが、小学校で全国値より15ポイント以上低く、かい離が大きい。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか。	82.7	80.0	80.5	82.0	70.0	75.7	79.3	62.4	54.5	63.4	44.2	56.8	54.5	58.2
	+6.4	+0.7	-1.6	+3.4	-4.2	+0.9	+0.9	+4.9	-3.1	+3.1	-6.8	+0.2	-3.4	-1.4
2 職場見学や職場体験活動を行ったか。	29.1	25.9	32.5	22.9	22.5	25.9	22.5	99.5	99.0	98.3	100.0	99.1	100.0	99.1
	-15.8	-16.0	-10.0	-14.8	-13.7	-8.5	-10.1	+1.0	+0.6	+0.0	+2.2	+2.0	+3.2	+3.1

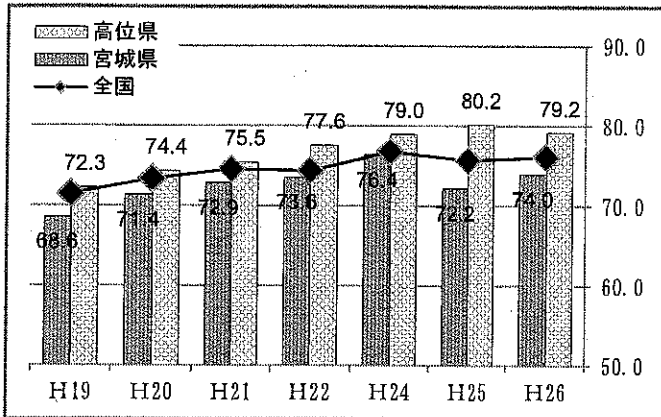
VI 平均正答率の高い県との比較

宮城県全体の課題をより明確に把握したいと考え、児童生徒質問紙調査において、自尊意識、将来の夢や目標、基本的な生活習慣、学習習慣、教科への取組や関心・意欲・態度に関する特徴の見られた10項目について、平均正答率の高い県（以下、高位県）と比較した。また、学校質問紙調査において、地域人材・施設の活用について、平均正答率の高い県（以下、高位県）と比較した。

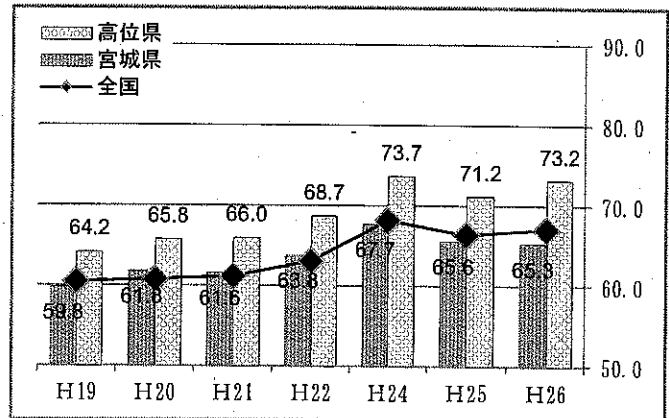
(1) 自尊意識、将来の夢や目標に関する質問事項の比較結果

①自分にはよいところがあると思いますか。

【小学校】

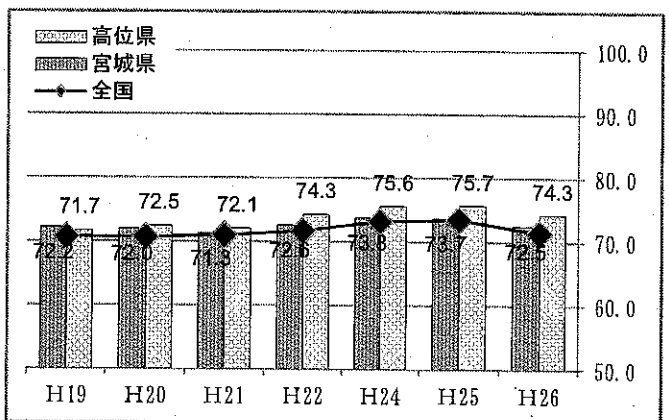
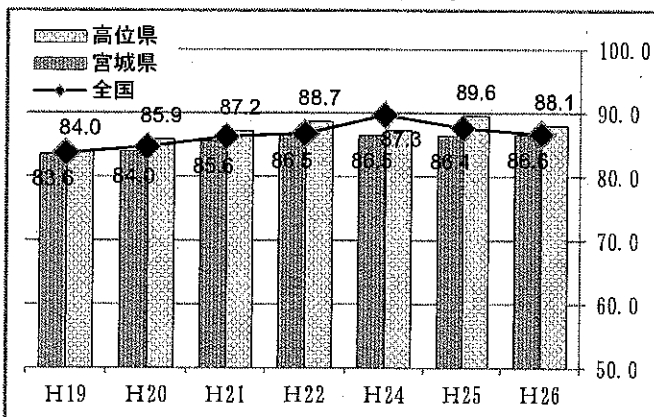


【中学校】



・小・中学生ともに全国値及び高位県より低い。

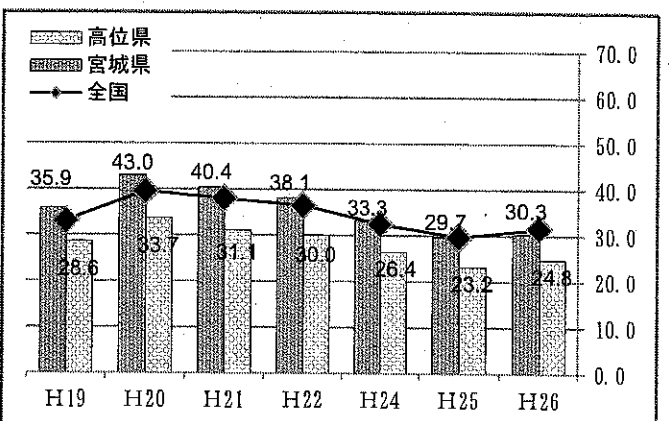
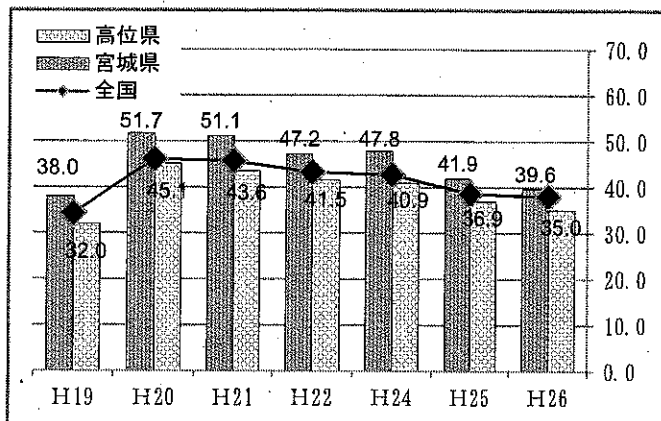
②将来の夢や目標を持っていますか。



・小学生は全国値とほぼ同じだが、高位県より低い。
・中学生は全国値より高いが、高位県より低い。

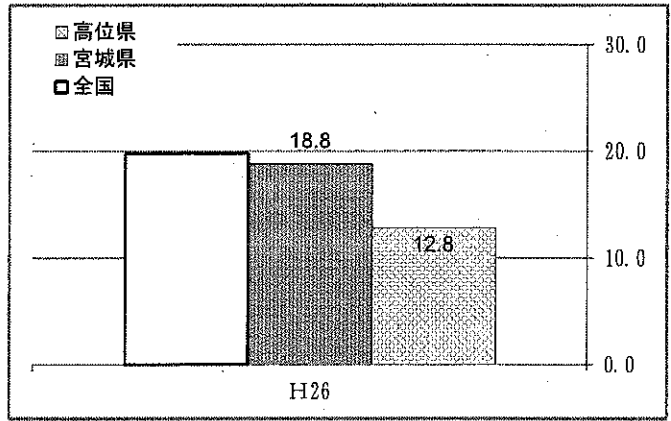
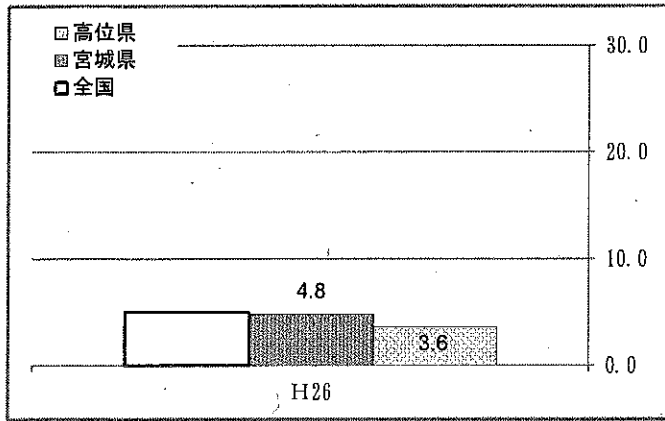
(2) 基本的な生活習慣に関する質問事項の比較結果

①1日何時間、テレビ等を見ますか。（3時間以上と回答した割合）



・小学生は全国値及び高位県より高い。
・中学生は全国値より低い、高位県より高い。

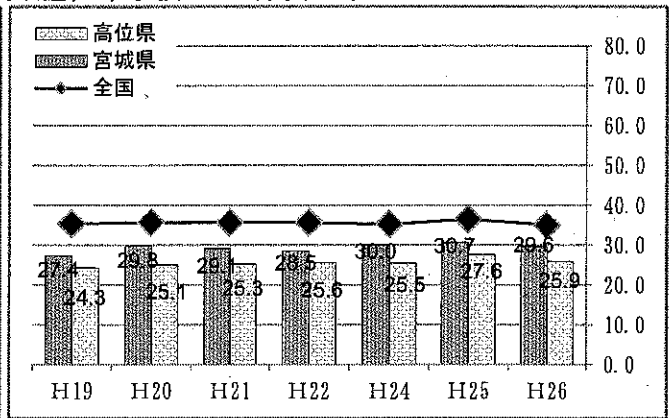
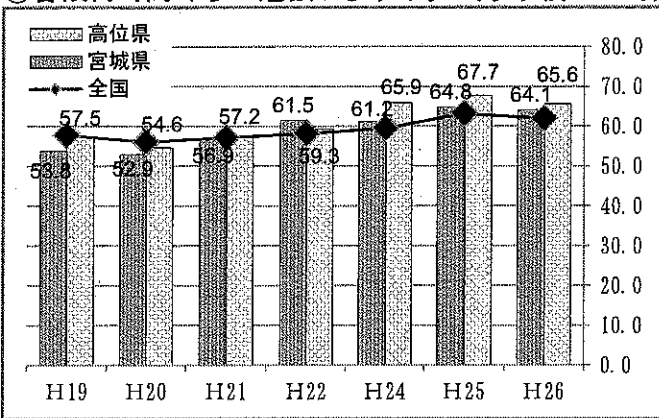
② 1日何時間、スマートフォン等で通話やメール、インターネットをしますか。(3時間以上と回答した割合)



・小・中学生ともに全国値に近いが、高位県より高い。

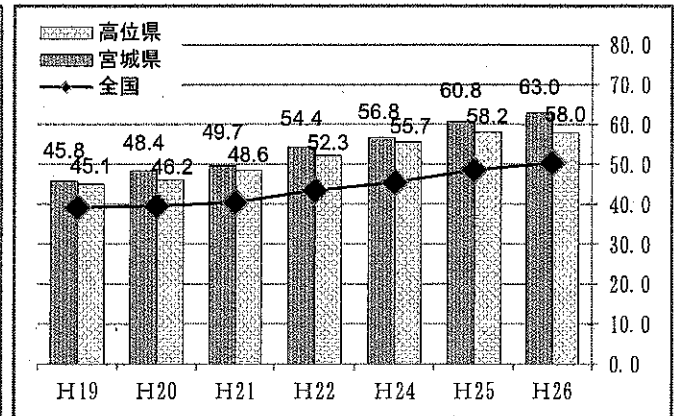
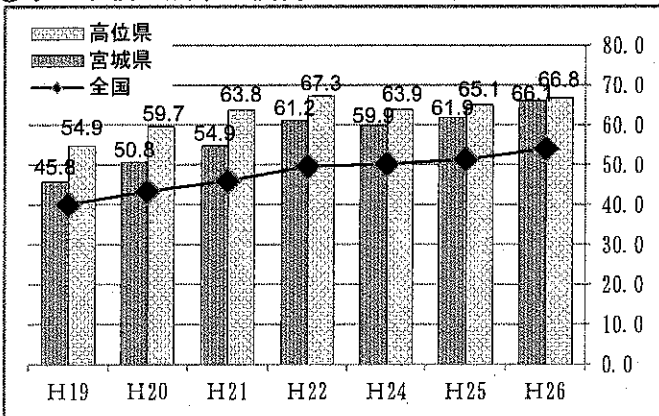
(3) 学習習慣に関する質問事項の比較結果

① 普段何時間くらい勉強しますか。(小学校：1時間以上、中学校：2時間以上)



- ・小学生は全国値より高いが、高位県より低い。
- ・中学生は高位県より高いが、全国値より低い傾向が続いている。

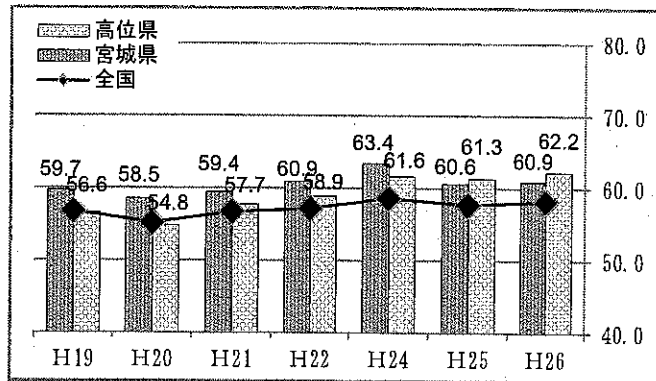
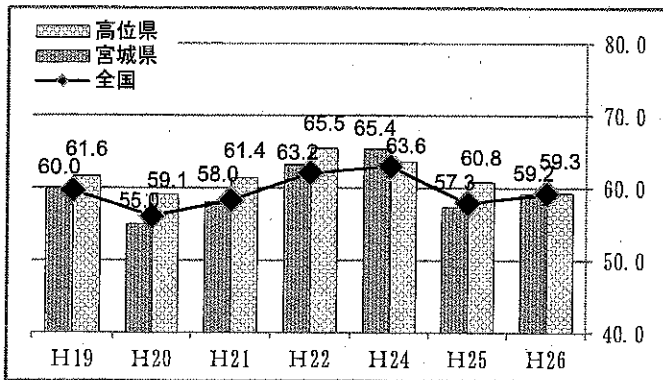
② 家で学校の授業の復習をしていますか。



- ・小学生は全国値より高いが、高位県より低い。
- ・中学生は全国値及び高位県より高い。

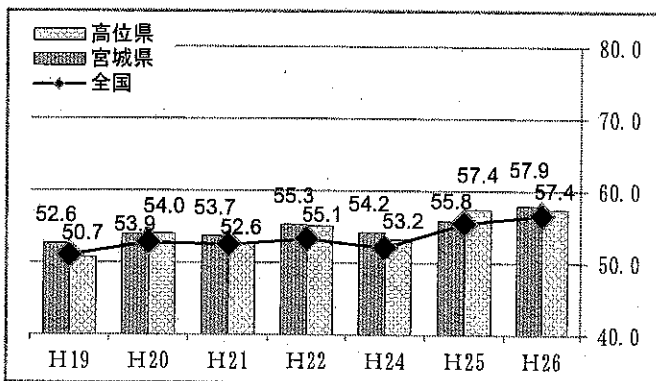
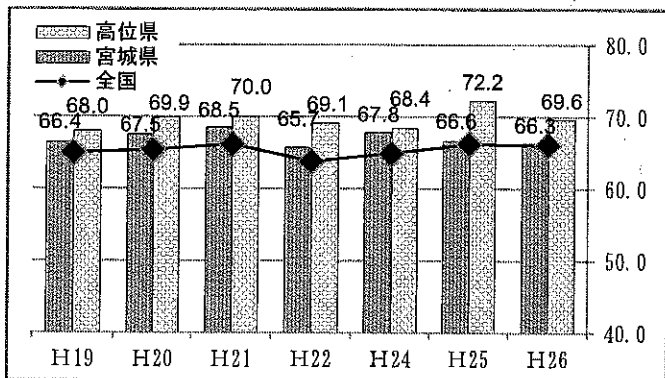
(4) 教科への取組や関心・意欲・態度に関する質問事項の比較結果

①国語の勉強は好きですか。



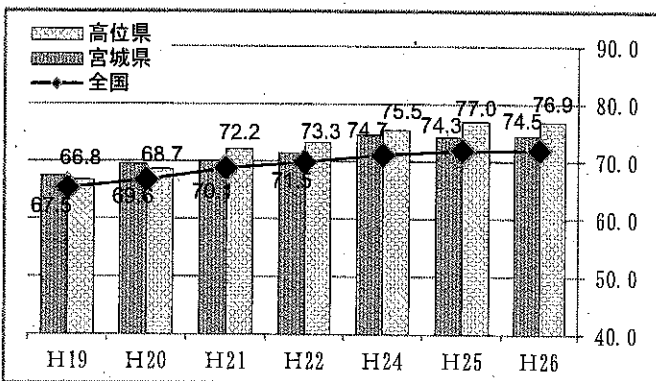
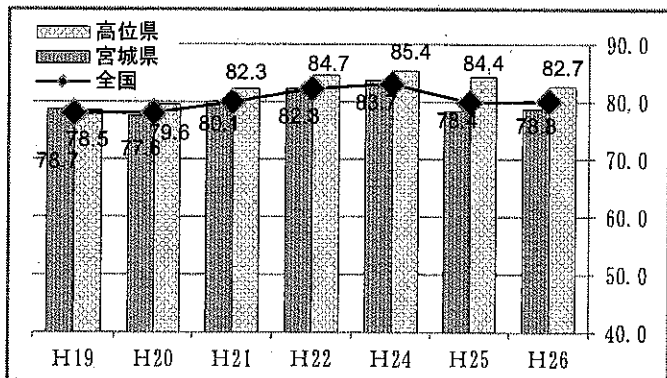
・小学生は全国値、高位県とほぼ同じである。中学生は全国値よりも高いが、高位県より低い。

②算数・数学の勉強は好きですか。



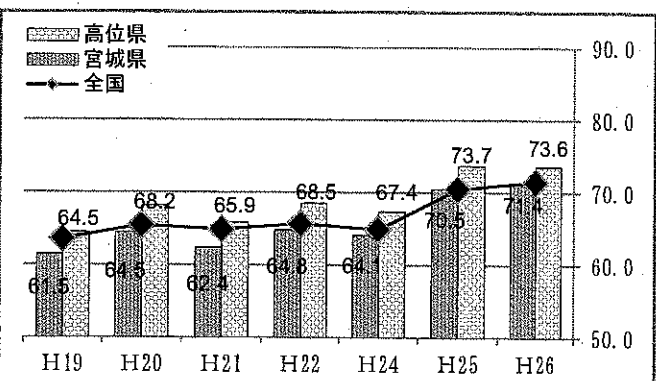
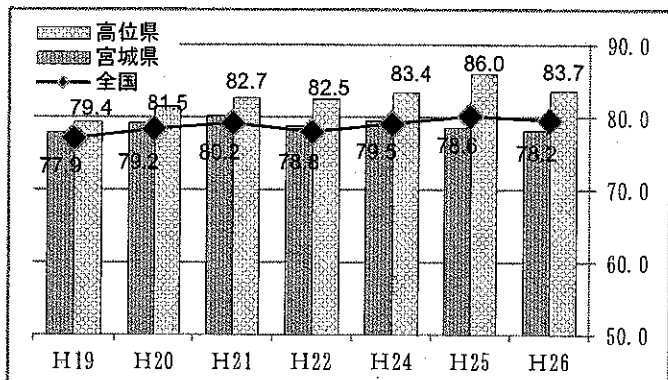
・小学生は全国値とほぼ同じで、高位県より低い。中学生は全国値、高位県とほぼ同じである。

③国語の授業の内容はよく分かりますか。



・小学生は全国値及び高位県より低い。
・中学生は全国値より高いが、高位県より低い。

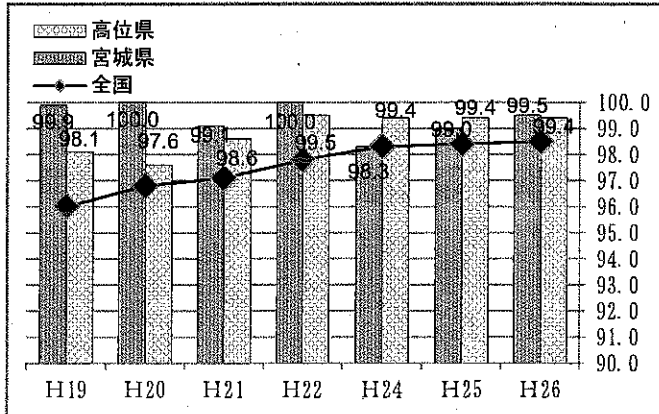
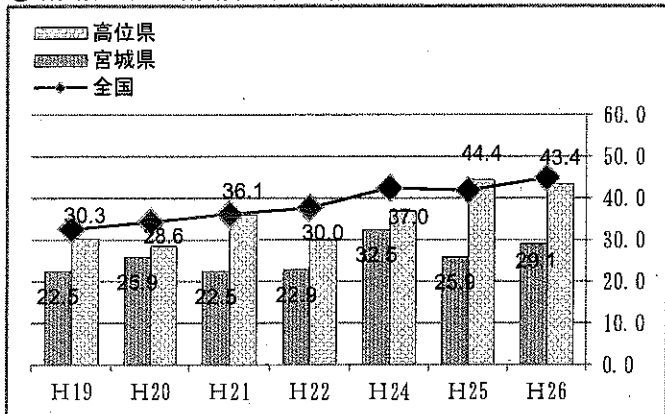
④算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。



・小学生は全国値及び高位県より低い。
・中学生は全国値とほぼ同じだが、高位県より低い。

(5) 地域人材・施設の活用に関する質問事項の比較結果 (学校質問紙調査)

① 職場見学や職場体験活動を行っていますか。



- ・小学生は全国値及び高位県より低い。
- ・中学生は全国値及び高位県とほぼ同じである。

(6) 高位県との比較から見てきた宮城県全体の状況

- 本県児童生徒の自尊意識は、高位県と比較して小・中学生ともに低い。また、小・中学生ともに全国値より低い。
- 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は、高位県と比較すると小・中学生ともに低い。
- 3時間以上テレビやビデオ・DVD を見る児童生徒の割合は、高位県、全国、本県ともに減少傾向にあるものの、本県小・中学生の割合は明らかに高い。また、3時間以上メールやインターネットを使用する割合も、本県児童生徒は高位県に比べて高い。
- 平日に家で1時間以上勉強する本県小学生の割合は、高位県より低い。2時間以上勉強する本県中学生の割合は、高位県より高いが、全国値よりは低い。
- 家で授業の復習をする児童生徒の割合は、本県小・中学生ともに全国値を上回り、中学生は高位県より高いが、小学生は高位県よりやや低い。
- 国語が好き、授業の内容が分かると答えた本県小・中学生の割合は、ともに高位県より低い。算数・数学についても、本県小学生については高位県より低い。しかしながら、本県中学生については、算数・数学が好きと答えた割合は高位県よりやや高く、国語・数学の授業の内容が分かると答えた割合は、調査開始時に比べて増加の傾向が見られる。
- 職場見学や職場体験活動を行っている学校の割合は、本県中学校については高位県、全国値とほぼ同じであるが、本県小学校については高位県より低く、全国値よりも低い。

『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアをいっつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

学力向上に向けた5つの提言

1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

2 子供をほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。

3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

5 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。何よりも保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。